

平成30年度版

十勝型GAPチェックリスト

解説書

H30.2.27

(農林水産省GAPガイドライン準拠)

JAネットワーク十勝農技協 GAP部会

作成:JAネットワーク十勝農産技術対策協議会 GAP部会

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
生産物共通チェックリスト用（様式110対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.共通事項	01	当年のチェックリストの内容を確認し、前年の自己点検結果を踏まえて改善に取り組みましたか	○	当年の十勝型GAPチェックリストおよび関連資料は、営農活動が始める前に配付されており、生産者が内容を確認することができる 前年のチェック結果を踏まえて、当年の営農に取り組むようにしている 自己点検だけでなく、他者の検証を受けている	当年の十勝型GAPチェックシート 他者による検証の記録	
	02	栽培管理から農薬出荷までの生産工程を文書化するとともに、点検項目を設定してその結果を記録・保管していますか	○	栽培の手順、農薬の取り扱い等についてマニュアル化されたものを利用している 点検事項を定め、その結果を記録し、取引先からの情報提供に対応するために必要な期間保管している	農協等が作成する栽培暦	
	03	栽培日誌(作業日誌)により当年の作業を記録し、それに基づき生産履歴を記帳し、すぐに取り出せる場所に保管していますか	○	生産履歴記帳シートは、当年の営農活動が始める前に配付されている 栽培日誌(作業日誌)は都度記録し、生産履歴記帳時の参考にしている 生産履歴記帳シートは、長期間にわたる分をまとめて記入したりせず、適時記入している 決められた場所に保管されており、連絡があった場合迅速に対応できるようになっている	生産履歴記帳シート 栽培日誌(作業日誌)	
	04	圃場地図を作成し、当年の作付場所・面積、隣接地の従前および現在の用途に関する記録を保管していますか	○	各圃場の履歴を確認できるよう、圃場図を整備・保管している 農協で、近隣圃場の台帳を確認することができる	圃場管理台帳	
	05	土壌伝染性の病害虫蔓延防止のため、圃場からの土の持出しが最小限となるよう、作業機械の洗浄・清掃を行っていますか	○	土壌を介して蔓延する可能性のある病害虫について理解しており、それを防ぐため作業機械等の清掃を、圃場間移動の際に適宜行っている	栽培日誌(作業日誌)	
	06	栽培や器具の洗浄に使用する水は、病原性微生物や重金属類の分析を行い、人体に影響がないことを確認していますか	○	地下水・河川水を使用する場合は、事前に水質分析結果を入手し、問題のある場合は関係機関に連絡し、適切な対応を取れるようにしている	水質検査の記録	水道水を利用している場合
	07	食の安全・安心に関する意識を高めるため、関連する情報に注意を払い、勉強に努めていますか		食の安全・安心に関する講習会に参加する、情報誌を読むなど、新しい情報を入手する努力をしている	関係する資料等	参加可能な範囲で講習会等が開催されていないなど、情報収集する手段がない場合
2.圃場準備	01	堆肥、緑肥などの有機物施用による土づくりを行っていますか	○	土作りの大切さを理解し、それに努めている 生食用野菜類において堆肥を使用する場合は完熟堆肥を使用するなど、有機物の施用が適切に行われている	施用記録	
	02	堆肥を自家調整している場合は、雑草種子・病害虫を殺滅するため完熟化していますか	○	定期的に切り返しを行うなど、農協等の推奨するマニュアルに従い、十分温度がかかる状態で調整している	栽培日誌(作業日誌)	堆肥を自家調整していない場合
	03	堆肥を長期間保管する施設は、雨水などにより周辺の環境を汚染しない構造になっていますか	○	堆肥を長期間保管する施設は、流れ出した汚水が河川や圃場・出荷用のコンテナなど、周辺の環境を汚染しない状態になっている 一時的な堆積場(圃場に散布する直前に仮置きする場)においても、周辺の環境を汚染しない場所に堆積している		堆肥の長期保管を行わない場合
	04	暗渠・心土破碎などによる排水対策を行っていますか	○	圃場の透排水性を把握できている 排水不良地では、可能な範囲で対策を実施している 排水対策が不十分な圃場では、作付けの際、何らかの対応措置を取っている	排水対策の記録	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
生産物共通チェックリスト用（様式110対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
2.圃場準備	05	防風林・防風柵の整備、カバークロープの栽培など土壌侵食、土壌流亡対策を実施していますか	○	対策が必要な圃場が把握できており、必要な対策が取られている		
	06	圃場内に鳥獣が侵入することを防ぐための対策が取られていますか	○	圃場残渣の管理の徹底等、鳥獣を引き寄せない取り組みを実践している 必要な場所には、侵入防止柵の設置をしている		
	07	前年の馬鈴しょ収穫後に、野良芋対策を行いましたか		野良いも対策の大切さを理解し、雪割りなどによりその低減に努めている	栽培日誌(作業日誌)	馬鈴しょの作付けがない
3.肥料・資材管理	01	肥料、生産資材の管理台帳を作成し都度記録を取り、購入伝票とともに保管していますか	○	肥料・生産資材・種苗・苗の管理台帳が整備され、入出庫の状況が都度記入されている 台帳と在庫の照合を適時実施し、在庫状況について確認している 記入した台帳は、(出荷後1年間など)予め定めた期間所定の場所に保管している 購入伝票が、必要に応じて照合可能な状態で保管されている	肥料管理台帳 生産資材管理台帳 種苗・苗の管理台帳 購入伝票類	
	02	肥料等の生産資材は整理・整頓して保管し、不要なものは適切に処分していますか	○	肥料・生産資材・種苗・苗は、所定の場所に保管されていて、無用の在庫を抱えていない 保管場所は整理され、必要に応じて取扱い上の注意を促す掲示がなされている 処分する場合は、農協の定期回収に出すなど、その地域で定められた方法に従っている	廃棄物のマニフェスト	
4.農薬の使用	01	農薬・除草剤は、農協等が定める栽培基準や技術情報に基づき選定していますか	○	農薬・除草剤の使用基準を理解し、それを遵守して作業を行っている 農協などの作成する、当年の農薬使用ガイドの内容に準じて防除計画を組み、実施できている	当年の農薬使用ガイド 農協等が作成する栽培暦	
	02	農薬の管理台帳を作成し都度記録を取り、購入伝票とともに保管していますか	○	農薬の管理台帳が整備され、入出庫の状況が都度記入されている 台帳と在庫の照合を適時実施し、在庫状況について確認している 記入した台帳は、(出荷後1年間など)予め定めた期間所定の場所に保管している 購入伝票が、必要に応じて照合可能な状態で保管されている	農薬管理台帳 購入伝票類	
	03	薬剤耐性が生じないような防除計画を組むとともに、作業に当たっては病害虫発生予察情報などを利用していますか	○	薬剤耐性はどういう条件で生じるかを理解し、それを防ぐような防除計画を立てている 農協などの作成する、当年の農薬使用ガイドの内容に準じて防除計画を組んでいるが、病害虫の発生状況について農協等から出される情報に注意を払うなど、適切なタイミングで防除するよう努めている	当年の農薬使用ガイド 農協等による病害虫予察情報	
	04	農薬を使用する際には、農薬ラベルの記載内容を確認していますか	○	農薬を調合する際に、以下の点をラベルで確認し、遵守している 使用目的・使用可能な作物・使用量・希釈倍率・収穫前使用時期・有効期限・使用上の注意事項 同一農薬を複数回使用する場合は、使用回数が超過しないよう、使用前に台帳で確認している	当年の農薬使用ガイド 農薬管理台帳	
	05	可能な場合は、農薬によらない耕種的・物理的防除についても検討していますか	○	農協等の出す情報に注意し、農薬によらない防除方法について検討している		関連する情報がない
	06	農薬の使用残が発生しないよう散布面積に合わせて必要な量だけを調製していますか	○	散布する面積に応じて農薬を調整し、使用残をできるだけ少なくするよう注意している	栽培日誌(作業日誌)	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
生産物共通チェックリスト用（様式110対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
4.農薬の使用	07	農薬の散布に当たっては、散布器具の洗浄状態を確認するなど、事前点検を行っていますか	○	使用前に洗浄の状況を確認し、残液と混合しないよう都度点検している 農薬散布が最適な状態でできるよう、散布機に不具合がないか事前に確認している 農薬の種類・散布時の天候・圃場の状況等を考慮し、適正な散布圧力・風量を調整している	栽培日誌(作業日誌)	
	08	周辺圃場への農薬飛散防止のため、飛散低減ノズルへの交換や、強風時には農薬散布を行わないなどの対策をとっていますか	○	周辺圃場に農薬のドリフトが起こらないよう努めている		
	09	農薬を散布する際、周辺圃場・住民に影響すると考えられる場合は、事前に周知するなどの対応を取っていますか	○	近隣圃場の作付け状況を把握している 近隣住民、生産者と日頃からコミュニケーションを取っており、農薬散布に当たって、影響が出る可能性がある場合には、話し合いができるようになっている		
	10	被覆を要する農薬(土壌くん蒸剤等)を使用する場合は、揮散を防止対策を実施していますか	○	当年の農薬使用ガイドや農薬のラベルに従い施用している	栽培日誌(作業日誌)	被覆を要する農薬を利用していない場合
	11	農薬を取扱う際、マスク・手袋などの保護具を着用していますか	○	農薬散布時に作業者の健康が損なわれないよう、保護具の着用を徹底している 保護具は、農薬と一緒に保管していない 保護具は、都度清潔なものを着用している		
	12	作業終了の都度、使用した機器(スプレーヤー・薬液タンク)・計量器・防護具などの洗浄を行っていますか	○	農薬使用後は、次回使用時に目的外成分の混入が起こらないよう、使用機材の洗浄を徹底できている	栽培日誌(作業日誌)	
	13	農薬散布に使用した機器を洗浄した水は、周辺環境を汚染しない場所で廃棄していますか	○	農薬洗浄水が河川に流出しないなど、周辺環境を汚染しない場所で処理している	栽培日誌(作業日誌)	
	14	農薬は適切な場所に保管していますか	○	農薬を保管する場所は、冷蔵・乾燥した場所で、第三者が容易に近づけない場所あるいは鍵のかかる保管庫に保管されている 農薬をこぼした場合は、速やかに清掃できるよう、掃除用具が近くに備えられている 保管場所は整理され、必要に応じて取扱い上の注意を促すような掲示がなされている		
	15	期限切れ農薬や、不要となった農薬・廃液は、農協等の指導に従い適切に処分していますか	○	使用できない農薬類は農協等の指導に従い、適切に処分され、無用の在庫を抱えていない 非農耕地で使用するために保管する場合は、農耕地用農薬と明確に区別して保管している 処分する場合は、農協の定期回収に出すなど、その地域で定められた方法に従っている	廃棄物のマニフェスト	
	16	農薬容器等の使用済みプラスチックなどの廃棄物は、農協等の指導に従い適切に処分していますか	○	使用済みプラスチック類などの廃棄物は、農協の定期回収に出す、資格のある業者に処理を委託するなど、その地域で定められた方法に従って処分している	廃棄物のマニフェスト	
5.栽培管理	01	定期的に圃場を巡回し、作物の生育状況に応じた対応をとっていますか		作物や圃場の状態に応じた栽培管理ができている 収量・品質の低下につながる、雑草の繁茂や病虫害の蔓延がない	栽培日誌(作業日誌)	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
生産物共通チェックリスト用（様式110対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
6.作業環境	01	作業の危険性を把握し、農作業安全を確保する体制を整備していますか	○	機械や各作業における危険箇所が事前に把握できており、危険箇所には表示板等が設置されている 高所における手すりの設置や酸欠の危険のある箇所での換気など、危険箇所における適切な対応が取られている 暑熱作業時の水分摂取など、環境に応じた対応を取っている 上記に係るマニュアルが整備されているなど、農作業安全に係る体制が整えられている	作業マニュアル	
	02	作業に適切な服装や装備をしている、作業者がその作業に適しているかなどを考慮して作業者を決めていますか	○	日々、作業従事者の健康状態等を確認し、不適切な状態の場合は作業させない 妊婦・年少者・高齢者・無資格者など、作業者の状態を考慮した作業分担としている 作業中の異物混入・機械の巻きこまれ事故を防止するため、不要なものは身に付けていない 1日当りの作業時間を定め、適切な間隔で休憩時間を設けている	作業マニュアル	
	03	作業の安全確保・事故防止を図るため、作業機械・施設の使用方法を守り、作業に当たる人の健康状態を都度確認していますか	○	作業機械や施設の説明書が所定の場所に保管されており、使用方法が使用者に周知されている 作業従事者の健康状態を都度確認し、無理な作業は行わせないなど、事故防止に努めている 修理工場・病院・作業員の自宅など、緊急連絡先が関係者にわかるようになっている	作業機械の使用説明書 緊急連絡先リスト	
	04	農作業事故の発生に備え、労災保険などに経営者や作業者全員が加入していますか	○	経営者、作業従事者(家族含む)、雇用労働者全員を対象として、労災保険に加入している	労災保険加入記録	
	05	外国人技能実習生の受け入れに当たっては、法令に従い必要な手続きに従い適切に対応していますか	○	法令に従った実習環境が整備されていること(賃金・労働時間・住居・休日の確保など) 正規に認可された団体以外からの実習生を受け入れていないこと	外国人技能実習生受入関係書類	外国人技能実習生を受け入れていない場合
	06	作業者が容易に利用できるトイレまたは、トイレまでの移動手段を確保していますか、また屋外トイレがある場合はし尿の処理は法令に従い適切に行っていますか	○	圃場から速やかにトイレまで移動できる手段が確保されていること 屋外トイレを設置する場合は、法令に従い適切にし尿処理を行っている 住宅との共用であれば住人と合意されていること 手洗い場が確保されており、特に野菜生産の場ではトイレの内外で履物が区別されていること		
	07	作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか	○	トラクター等の作業機械は、適時点検整備を行い、使用時の誤作動、異物・異品種の混入などが生じないようにしている 作業機械点検の記録を台帳にしている 生産物を取り扱う施設(倉庫)は、清潔な状態に保たれていて、異物・異品種の混入などが生じないようにしている	作業機械の点検記録 修理部品の購入・交換の記録	
	08	軽油や灯油のタンクから漏れがないか点検し、付近には可燃物を置かないなど安全対策が取られていますか	○	定期的にタンクの点検を行っている タンク周辺に可燃物を置かないようにしている タンクの設置場所は、消防法の規定に従っている(屋内に設置しないなど)	タンクの点検記録	
	09	作業機械・施設等の使用及び導入に当たっては、省エネルギーに努めていますか	○	燃料の節約・節電など、無駄なエネルギーの使用を控え、施設・機械の効率的な運用に努めている		
7.知的財産	01	農場の名称や商品に付けた固有の名称などについて、必要に応じて登録していますか	○	必要に応じて特許取得、商標登録を行っている	登録証	該当する事例がない場合
	02	種や苗は、配布元から契約内容や指定された条件に従い、適切に使用していますか	○	特許取得・商標登録がされた技術を流用する場合は、使用に係る条件に従っている		該当する事例がない場合

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
小麦類用チェックリスト用（様式210対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.圃場準備	01	連作障害による生産力の低下を招かないよう、計画的な輪作を行っていますか		連作で生じる問題を理解し、適切な輪作を行うよう努めている	圃場管理台帳など(圃場毎の輪作期間を確認できる資料)	
	02	良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか		適切な播種条件を整えるため、土壌水分・天候に注意して作業を行うよう努めている (天候不順により作業できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)		
2.播種作業	01	種子は全量更新用種子を用い、事前に品種名の確認を行いましたか		不良種子を使用することによる、出芽不良や収量・品質の低下を招かないよう、種子審査に合格した更新用種子を使用している 種子の取り違えがないよう、播種前に品種名の確認をしている	種子の購入記録	
	02	消毒を行った種子を使用しましたか		種子消毒の重要性を理解している 消毒済み種子を購入している、あるいは自分で種子消毒を行う場合は、農協等が定める農薬使用ガイドなどに基づく薬剤により、使用量・回数を守って行っている	当年の農薬使用ガイドなど	
	03	圃場の状態・天候などを考慮し、適期に播種を行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、圃場の状態・天候を考慮し、適期播種に努めている (天候不順により播種できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	04	事前に播種機の設定(播種量・株間・施肥量)を確認し、播種精度の向上に努めましたか		事前に播種機に不具合がないかを確認している 播種機の各種設定を確認し、欠株の発生防止や施肥のムラが生じないよう努めている		
3.栽培管理	01	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
	02	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	03	分肥を行う場合は、農協等が定める栽培基準などに基づき適期に施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	分肥をしていない場合
	04	施肥に当たっては、タンパク含有量がランク区分の基準値内になるよう、農協等が定める栽培基準などに従い、効率的に行いましたか		施肥の時期・施肥量が、小麦子実のタンパク含量に及ぼす影響を理解している 施肥に当たっては、農協などの指導を参考に、生産物のタンパク含量上昇による品位低下を防ぐよう努めている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	05	赤かび病の適期防除に努めましたか	○	赤かび病についての知識があり、発生を抑えることの必要性を理解している 薬剤は、農協等が定める農薬使用ガイドなどに基づく薬剤により、使用量・回数を守っている 防除に当たっては、農協等が定める栽培基準や情報に留意し、適期防除に努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌 当年の農薬使用ガイドなど	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
小麦類用チェックリスト用（様式210対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
3.栽培管理	06	種子生産圃場は、病害株・異品種・異形株の抜き取りを実施するなど、関係機関・農協の指導に従い管理しましたか		十勝農協連の定める「原採種圃設置指導方針」や農協等の指導に従い、適切に管理できている 所定の検査機関による審査(圃場・生産物)に合格している	種子審査合格証 栽培日誌など	種子生産者以外
4.収穫作業	01	圃場毎の収穫適期調査に基づき収穫を行いましたか		衛星写真・穂水分検査結果などの客観的なデータを活用し、適期収穫に努めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない) 複数品種作付けている場合は、品種ごとに収穫している	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌(収穫の記録) 生育早晚マップなど	
	02	倒伏や赤かび病による被害圃場の麦を分けて収穫しましたか	○	事前に収穫圃場の被害発生状況を把握できており、収穫の順番を予め決めている 作業開始前に収穫機の清掃を徹底するよう努めている その他、被害麦(病害麦)の混麦による全体の品位低下を招かないよう努めている		倒伏や病害が発生していない場合
	03	複数品種を作付けている場合は、異品種の混入がないように、品種ごとに機械の清掃を行いましたか	○	複数品種作付けている場合は、異品種の混麦による品位低下を招かないよう努めている		1品種しか作付けていない場合
	04	コンバインを他の作物と共有している場合、入れ替えの際に清掃を行いましたか	○	小麦と他の作物を入れ替える際は、異種穀粒の混入を招かないよう、清掃と清掃後のチェックを徹底している 特にそばと共有する場合は、そばアレルギーの危険性について十分理解している		他の作物と収穫機械を共有していない場合
	05	収穫後、野焼きをしていない	○	病虫害の発生等、やむを得ない場合を除き、野焼きは行っていない 残渣をすき込む、あるいは有機質資源として活用するよう努めている		
	06	異物の混入を防止するため、収穫物の輸送に使うコンテナ・フレコンパック・トラックの荷台などは、清掃されたものを使っていますか	○	輸送容器(トラックの荷台含む)は、清掃されたものを使用し、収穫物に異物が混入しないよう努めている 異物とは、土砂・異種穀粒・腐敗した生産物などを指し、清掃に使う道具も、これら異物の付着がないものを使用している		収穫を委託している場合
5.出荷管理	01	出荷に係る記録を適切に保管していますか	○	出荷記録は、以下の記録を網羅していること 品名、出荷元の名称・所在地、出荷先の名称・所在地、出荷年月日、出荷量、残留農薬検査等を実施した場合の記録、出荷記録の保管期間は流通実態に応じて決められていること(1~3年)	左記の通り	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
豆類用チェックリスト用（様式220対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.圃場準備	01	連作障害による生産力の低下を招かないよう、計画的な輪作を行っていますか		連作で生じる問題を理解し、適切な輪作を行うよう努めている	圃場管理台帳など(圃場毎の輪作期間を確認できる資料)	
	02	良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか		適切な播種条件を整えるため、土壌水分・天候に注意して作業を行うよう努めている (天候不順により作業できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	栽培日誌	
2.播種作業	01	種子は全量更新用種子を用い、事前に品種名の確認を行いましたか		不良種子を使用することによる、出芽不良や収量・品質の低下を招かないよう、種子審査に合格した更新用種子を使用している 種子の取り違えがないよう、播種前に品種名の確認をしている	種子の購入記録	
	02	消毒を行った種子を使用しましたか		種子消毒の重要性を理解している 消毒済み種子を購入している、あるいは自分で種子消毒を行う場合は、農協等が定める農薬使用ガイドなどに基づく薬剤により、使用量・回数を守って行っている	当年の農薬使用ガイドなど	
	03	圃場の状態・天候などを考慮し、適期に播種を行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、圃場の状態・天候を考慮し、適期播種に努めている (天候不順により播種できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	04	事前に播種機の設定(播種量・株間・施肥量)を確認し、播種精度の向上に努めましたか		事前に播種機に不具合がないかを確認している 播種機の各種設定を確認し、欠株の発生防止や施肥のムラが生じないよう努めている		
3.栽培管理	01	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
	02	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	03	追肥を行う場合は、農協等が定める栽培基準などに基づき適期に施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	追肥を行っていない場合
	04	種子生産圃場は、病害株・異品種・異形株の抜き取りを実施するなど、関係機関・農協の指導に従い管理しましたか		十勝農協連の定める「原採種圃設置指導方針」や農協等の指導に従い、適切に管理できている 所定の検査機関による審査(圃場・生産物)に合格している	種子審査合格証 栽培日誌など	種子生産者以外
4.収穫作業	01	適正な水分の時に、かつ汚粒が生じないよう、収穫を行いましたか		収穫前に圃場の雑草処理を行っている 収穫適期と土壌水分を考慮して作業を行い、汚粒による品位低下が生じないよう努めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌(収穫の記録)	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
豆類用チェックリスト用（様式220対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
4.収穫作業	02	複数品種作付けている場合は、異品種の混入がないように、品種ごとに作業機械の清掃を行いましたか	○	作業開始前に収穫機や乾燥機などの清掃が徹底されている 複数品種作付けている場合は、異品種の混入による品位低下を招かないよう努めている		1品種しか作付けていない場合
	03	乾燥機を使用する場合は、全体が均一な水分となるよう、時々攪拌するなどしましたか	○	乾燥機中で生産物に水分のムラを生じないように努めている		乾燥機を使用していない場合
	04	乾燥機を使用する場合は、過乾燥にならないよう、子実水分に注意して作業を行いましたか	○	過乾燥による割れ、剥皮などの品位の低下を招かないよう努めている		乾燥機を使用していない場合
	05	収穫後、野焼きをしていない	○	病虫害の発生等、やむを得ない場合を除き、野焼きは行っていない 残渣をすき込む、あるいは有機質資源として活用するよう努めている		病虫害の発生を防ぐ必要がある場合
	06	異物の混入を防止するため、収穫物の輸送に使うコンテナ・フレコンパック・トラックの荷台などは、清掃されたものを使っていますか	○	輸送容器(トラックの荷台含む)は、清掃されたものを使用し、収穫物に異物が混入しないよう努めている 異物とは、土砂・異種穀粒・腐敗した生産物などを指し、清掃に使う道具も、これら異物の付着がないものを使用している		収穫と輸送を委託している場合
5.出荷管理	01	出荷に係る記録を適切に保管していますか	○	出荷記録は、以下の記録を網羅していること 品名、出荷元の名称・所在地、出荷先の名称・所在地、出荷年月日、出荷量、残留農薬検査等を実施した場合の記録、出荷記録の保管期間は流通実態に応じて決められていること(1～3年)	左記の通り	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
そば用チェックリスト用（様式230対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例	附帯資料
1.圃場準備	01	連作障害による生産力の低下を招かないよう、計画的な輪作を行っていますか		連作で生じる問題を理解し、適切な輪作を行うよう努めている	圃場管理台帳など(圃場毎の輪作期間を確認できる資料)		
	02	良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか		適切な播種条件を整えるため、土壌水分・天候に注意して作業を行うよう努めている (天候不順により作業できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	栽培日誌		
2.播種作業	01	種子は全量更新用種子を用い、事前に品種名の確認を行いましたか		不良種子を使用することによる、出芽不良や収量・品質の低下を招かないよう、種子審査に合格した更新用種子を使用している 種子の取り違えがないよう、播種前に品種名の確認をしている	種子の購入記録		
	02	圃場の状態・天候などを考慮し、適期に播種を行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、圃場の状態・天候を考慮し、適期播種に努めている (天候不順により播種できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌		
	03	事前に播種機の設定(播種量・株間・施肥量)を確認し、播種精度の向上に努めましたか		事前に播種機に不具合がないかを確認している 播種機の各種設定を確認し、欠株の発生防止や施肥のムラが生じないように努めている			
3.栽培管理	01	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準		
	02	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書などを参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌		
	03	種子生産圃場は、病害株・異品種・異形株の抜き取りを実施するなど、関係機関・農協の指導に従い管理しましたか		十勝農協連の定める「原採種圃設置指導方針」や農協等の指導に従い、適切に管理できている 所定の検査機関による審査(圃場・生産物)に合格している	種子審査合格証 栽培日誌など	種子生産者以外	
4.収穫作業	01	生育状況を観察し、適期に収穫作業を行うことができましたか		生育状況を観察し、圃場の状態・天候を考慮した上で、適期収穫に努めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌(収穫の記録)		
	02	コンバインを他の作物と共有している場合、入れ替えの際に清掃を行いましたか	○	そばアレルギーの危険性を理解している そばと他の作物を入れ替える際は、清掃と清掃後のチェックを徹底している		小麦を作付けていない場合 小麦と収穫機械を共有していない場合	
	03	集荷計画に従って、収穫・搬出を行いましたか	○	受入施設の集荷計画に沿った、収穫・搬出に努めている		共同出荷していない場合	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
馬鈴しょ用チェックリスト用（様式310対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.圃場準備	01	連作障害による生産力の低下を招かないよう、計画的な輪作を行っていますか		連作で生じる問題を理解し、適切な輪作を行うよう努めている	圃場管理台帳など(圃場毎の輪作期間を確認できる資料)	
	02	良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか		適切な播種条件を整えるため、土壌水分・天候に注意して作業を行うよう努めている (天候不順により作業できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	栽培日誌	
	03	播種前に、ジャガイモシストセンチュウの土壌検診を行いましたか		ジャガイモシストセンチュウの危険を認識し、対策の重要性を理解している 植付け前の土壌検診を実施し、問題のないことが確認された圃場に植付けている	検診結果	
2.播種作業	01	種子は全量更新用種子を用い、事前に品種名の確認を行いましたか		不良種子を使用することによる、出芽不良や収量・品質の低下を招かないよう、種子審査に合格した更新用種子を使用している 種子の取り違えがないよう、播種前に品種名の確認をしている	種子の購入記録	
	02	消毒を行った種子を使用しましたか		種子消毒の重要性を理解している 消毒済み種子を購入している、あるいは自分で種子消毒を行う場合は、農協等が定める農業使用ガイドなどに基づく薬剤により、使用量・回数を守っている	当年の農業使用ガイドなど	
	03	種いもの切断に使う包丁など刃物類、またはカッティングプランターは、それらを介して病害が蔓延するのを防ぐため、清潔な状態で適切に管理されていますか	○	切断刀などを介して発生する病害について理解している 切断刀の消毒は、農協等が定める農業使用ガイドなどに基づく薬剤により、使用量・回数を守っている 刃物類の保管場所を定め、使用していない時はそこに保管している	当年の農業使用ガイドなど	全粒種子のみを使用している場合
	04	圃場の状態・天候などを考慮し、適期に播種を行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、圃場の状態・天候を考慮し、適期播種に努めている (天候不順により播種できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	05	事前に播種機の設定(播種量・株間・施肥量)を確認し、播種精度の向上に努めましたか		事前に播種機に不具合がないかを確認している 播種機の各種設定を確認し、欠株の発生防止や施肥のムラが生じないように努めている		
3.栽培管理	01	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
	02	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	03	追肥を行う場合は、農協等が定める栽培基準などに基づき適期に施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	追肥を行っていない場合

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
馬鈴しょ用チェックリスト用（様式310対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
3.栽培管理	04	被覆資材(不織布、マルチ)を使用している場合は、適期に除去を行いましたか		被覆資材は、生育状況・収穫時期を考慮し、農協などの指導に従い除去している 除去した被覆資材は、農協などの指導に従い、適切に処分している	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	被覆資材を使用していない場合
	05	茎葉処理を行っている場合は、農協等の指導に基づき、適切に行うことができましたか	○	茎葉処理は、農協などの指導に従い適期に行うよう努めている 茎葉処理に使う薬剤は、農協等が定める栽培基準などに基づき、使用量・回数を守っている 茎葉処理を機械で行う場合は、農協等が定める栽培基準などに基づき行っている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌 当年の農薬使用ガイド	茎葉処理を行っていない場合
	06	種子生産圃場は、病害株・異品種・異形株の抜き取りを実施するなど、関係機関・農協の指導に従い管理しましたか		十勝農協連の定める「原採種圃設置指導方針」や農協等の指導に従い、適切に管理できている 所定の検査機関による審査(圃場・生産物)に合格している	種子審査合格証 栽培日誌など	種子生産者以外
4.収穫作業	01	生育状況を観察し、適期に収穫作業を行うことができましたか		生育状況を観察し、圃場の状態・天候を考慮した上で、適期収穫に努めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌(収穫の記録)	
	02	収穫時に傷・打撲・異物の混入などをチェックしながら、最適な状態での収穫を行いましたか		機上選別を伴う収穫作業は、圃場の状態を考慮し、正確に規格外品を取り除ける速度で行っている 個選を行う作業には、選別基準が周知されており、適宜チェックしている		個選を行わない場合
	03	複数品種を作付けている場合は、異品種の混入がないように、品種ごとに機械の清掃を行いましたか	○	作業開始前に収穫機の清掃が徹底されている 複数品種作付けている場合は、異品種の混入による品位低下を招かないよう努めている		1品種しか作付けていない場合
	04	異物の混入を防止するため、収穫物の輸送に使うコンテナ・フレコンパック・トラックの荷台などは、清掃されたものを使っていますか	○	輸送容器(トラックの荷台含む)は、清掃されたものを使用し、収穫物に異物が混入しないよう努めている 異物とは、土砂・異種穀粒・腐敗した生産物などを指し、清掃に使う道具も、これら異物の付着がないものを使用している		収穫と輸送を委託している場合
5.出荷管理	01	出荷に係る記録を適切に保管していますか	○	出荷記録は、以下の記録を網羅していること 品名、出荷元の名称・所在地、出荷先の名称・所在地、出荷年月日、出荷量、残留農薬検査等を実施した場合の記録、出荷記録の保管期間は流通実態に応じて決められていること(1～3年)	左記の通り	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
てん菜用チェックリスト用（様式320対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.圃場準備	01	連作障害による生産力の低下を招かないよう、計画的な輪作を行っていますか		連作で生じる問題を理解し、適切な輪作を行うよう努めている	圃場管理台帳など(圃場毎の輪作期間を確認できる資料)	
	02	良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか		適切な播種条件を整えるため、土壌水分・天候に注意して作業を行うよう努めている (天候不順により作業できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	栽培日誌	
2.自家育苗の場合	01	育苗用ハウスは、播種時期を考慮し、適切な時期に設置しましたか		圃場への定植時期を考慮し、適切な時期に播種できるよう設置している	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	直播または苗を購入する場合
	02	播種前に品種名の確認を行いましたか		種子の取り違えがないよう、品種名の確認を行っている		直播または苗を購入する場合
	03	育苗にかかる日数を考慮し、適期に播種を行いましたか		農協などで作成した栽培暦などにに基づき、苗床を整え、適期播種に努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	直播または苗を購入する場合
	04	育苗施設は清潔に管理し、温度管理を適切に行いましたか	○	育苗施設は苗の汚染がないよう清潔に管理している 苗が最適な状態で生育できるよう、適切な水量・温度で管理している	施設の管理記録	直播または苗を購入する場合
3.苗を購入する場合	01	育苗施設から苗を受領する際、品種名の確認を行いましたか		苗の取り違えがないよう、受領時に品種名の確認を行っている		直播または自家育苗の場合
	02	受領した苗を管理する施設は、清潔に管理し、温度管理を適切に行いましたか	○	育苗施設は苗の汚染がないよう清潔に管理している 苗が最適な状態で生育できるよう、適切な水量・温度で管理している	施設の管理記録	直播または自家育苗の場合
4.移植	01	事前に移植機の設定(株間・施肥量)などを確認し、移植精度の向上に努めましたか		事前に移植機に不具合がないかを確認している 移植機の各種設定を確認し、欠株の発生防止や施肥のムラが生じないように努めている		直播の場合
	02	圃場の状態・天候などを考慮し、適期に移植を行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、圃場の状態・天候を考慮し、適期移植に努めている (天候不順により播種できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	直播の場合
	03	適切に補植を行い、栽植密度の確保に努めましたか		補植作業は、農協等が定める栽培基準などを参考に適期に行うよう努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	直播の場合

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
てん菜用チェックリスト用（様式320対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
5.直播	01	播種前に品種名の確認を行いましたか		種子の取り違えがないよう、品種名の確認を行っている		移植の場合
	02	事前に播種機の設定（播種量・株間・施肥量）を確認し、播種精度の向上に努めましたか		事前に播種機に不具合がないかを確認している 播種機の各種設定を確認し、欠株の発生防止や施肥のムラが生じないように努めている		移植の場合
6.栽培管理	01	土壌診断に基づき、効率的な施肥を心掛けていますか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づき施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
	02	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	03	追肥を行う場合は、農協等が定める栽培基準などに基づき適期に施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	追肥を行っていない場合
7.収穫作業	01	集荷計画に従って、収穫・搬出を行いましたか		受入施設の集荷計画に沿った、収穫・搬出に努めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)		
8.出荷管理	01	出荷に係る記録を適切に保管していますか	○	出荷記録は、以下の記録を網羅していること 品名、出荷元の名称・所在地、出荷先の名称・所在地、出荷年月日、出荷量、残留農薬検査等を実施した場合の記録、出荷記録の保管期間は流通実態に応じて決められていること(1～3年)	左記の通り	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
育苗を伴わない野菜類用チェックリスト用（様式410対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.圃場準備	01	連作障害による生産力の低下を招かないよう、計画的な輪作を行っていますか		連作で生じる問題を理解し、適切な輪作を行うよう努めている	圃場管理台帳など(圃場毎の輪作期間を確認できる資料)	
	02	良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか		適切な播種条件を整えるため、土壌水分・天候に注意して作業を行うよう努めている(天候不順により作業できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	栽培日誌	
2.播種作業	01	播種前に品種名の確認を行いましたか		種子の取り違えがないよう、品種名の確認を行っている		
	02	消毒を行った種子を使用しましたか		種子消毒の重要性を理解している 消毒済み種子を購入している、あるいは自分で種子消毒を行う場合は、農協等が定める農業使用ガイドなどに基づく薬剤により、使用量・回数を守って行っている	当年の農業使用ガイドなど	
	03	出荷計画に沿って、適期に播種を行いましたか		作期毎の出荷計画が周知されており、それに対応した播種を行うよう努めている	農協などで作成した栽培暦、栽培日誌	
	04	圃場の状態・天候などを考慮し、適期に播種を行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、圃場の状態・天候を考慮し、適期播種に努めている(天候不順により播種できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦栽培日誌	
	05	事前に播種機の設定(播種量・株間・施肥量)などを確認し、播種精度の向上に努めましたか		事前に播種機に不具合がないかを確認している 播種機の各種設定を確認し、欠株の発生防止や施肥のムラが生じないように努めている		
3.栽培管理	01	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
	02	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書などを参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	03	追肥を行う場合は、農協等が定める栽培基準などに基づき適期に施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書などを参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	追肥を行っていない場合
	04	被覆資材(マルチ、不織布)を使用する場合は、使用する目的に応じた適切な資材の選択を行い、生育に応じた適期除去に努めていますか		使用目的(地温確保、雑草対策、病害虫対策etc.)に合わせてマルチの選択を行っている 被覆資材は、生育状況・収穫時期を考慮し、農協などの指導に従い除去している 除去した被覆資材は、農協などの指導に従い、適切に処分している		マルチをしていない場合
	05	間引きを行う場合は、作物の状態を観察し、残す株を傷めないよう、適期に行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、適期に間引きを行うよう努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	間引きを行う必要のない場合
4.収穫作業	01	出荷計画に沿って、適期に収穫作業を行いましたか		作期毎の出荷計画が周知されており、それに適した収穫を行うよう努めている(天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌(収穫の記録)	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
 育苗を伴わない野菜類用チェックリスト用（様式410対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
4.収穫作業	02	収穫を行う際は、規格外品を発生させないよう、出荷規格に従った作業を行いましたか		作業員に出荷規格基準について周知し、収穫作業時の規格外品の発生を抑えるよう努めている		
	03	収穫に刃物を使用する場合、作業員の安全に十分配慮していますか	○	刃物類の取扱い上の注意事項が、作業員に周知されている		収穫に刃物類を使用しない場合
	04	収穫に用いる鋏・包丁など刃物類は、清潔な状態で適切に管理していますか	○	刃物類を介しての病害汚染について理解している 刃物類は使用の都度洗うなど、清潔に管理されている 刃物類の保管場所を定め、使用していない時はそこに保管している		収穫に刃物類を使用しない場合
	05	収穫に使用する資材や機械の洗浄・清掃等、収穫物や梱包資材の汚れ防止対策を実施しましたか	○	収穫用の機械・包装資材の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 包装資材は、農薬・肥料などとは別の場所で保管している		
	06	収穫・箱詰め・搬出の際、規格外品・異物混入・病原菌による汚染や農薬付着などの防止対策を行いましたか	○	箱詰めを行う現場で、土の付着・異物の混入を防ぐ対策が取られている 収穫物を運搬に使うトラックなどの荷台は、土・農薬・肥料などがなく清潔な状態である トイレ・手洗い場は、作業場所から隔離されたところにある トイレに行った後は手を洗うなど、衛生管理が作業員に徹底されている		
	07	残渣などは堆肥として利用したり、すき込むなどして適切に処分しましたか	○	残渣物を有機質資源として活用するよう努めている		
	08	作業員が感染症にかかっていると思われる場合、あるいは衛生上不適切な状態にあると思われる場合は、可食部に直接触れる作業をさせないようにしていますか	○	作業員に下痢・嘔吐・発熱などの症状があり、感染症にかかっていると疑われる場合は、可食部に触れる作業をさせない 作業前・堆肥に触れた後・トイレの後など、必要に応じて手洗いの実施を徹底する 作業員が、清潔な作業着や手袋等を身に付けていることや、手足の傷は隠れているかなどを確認する		
5.出荷管理	01	共同選別施設・集出荷施設への搬入に当たっては、搬入計画に従い行いましたか		受入施設の集荷計画に沿った、収穫・搬出に努めている		共同施設への搬入を行わない場合
	02	出荷に係る記録を適切に保管していますか	○	出荷記録は、以下の記録を網羅していること 品名、出荷元の名称・所在地、出荷先の名称・所在地、出荷年月日、出荷量、残留農薬検査等を実施した場合の記録、出荷記録の保管期間は流通実態に応じて決められていること(1～3年)	左記の通り	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
 苗立てを要する野菜類用チェックリスト用（様式420用）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.圃場準備	01	連作障害による生産力の低下を招かないよう、計画的な輪作を行っていますか		連作で生じる問題を理解し、適切な輪作を行うよう努めている	圃場管理台帳など(圃場毎の輪作期間を確認できる資料)	
	02	良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか		適切な播種条件を整えるため、土壌水分・天候に注意して作業を行うよう努めている(天候不順により作業できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	栽培日誌	
2.自家育苗の場合	01	育苗用ハウスは、播種時期を考慮し、適切な時期に設置しましたか		圃場への定植時期を考慮し、適切な時期に播種できるよう行うよう努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	苗を購入する場合
	02	播種前に品種名の確認を行いましたか		種子の取り違えがないよう、品種名の確認を行っている		苗を購入する場合
	03	出荷計画に沿って、適期に播種を行いましたか		作期毎の出荷計画が周知されており、それに対応できるよう苗床を整え、適期播種に努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	苗を購入する場合
	04	育苗施設は清潔に管理し、温度管理を適切に行いましたか	○	育苗施設は苗の汚染がないよう清潔に管理している 苗が最適な状態で生育できるよう、適切な水量・温度で管理している	施設の管理記録	苗を購入する場合
	05	育苗土は、土壌診断に基づき適正な状態で使用しましたか、または専用育苗資材は対象作物に適切な資材を使用しましたか	○	育苗土は、育苗に適正な化学性、物理性を確保している 専用育苗資材は対象作物の生育に適した資材を選定している	土壌診断結果 育苗資材購入伝票 (品質証明書)	育苗土・専用育苗資材を使用しない場合
3.苗を購入する場合	01	育苗施設から苗を受領する際、品種名の確認を行いましたか		苗の取り違えがないよう、受領時に品種名の確認を行っている		自家育苗の場合
	02	受領した苗を管理する施設は、清潔に管理し、温度管理を適切に行いましたか	○	育苗施設は苗の汚染がないよう清潔に管理されている 苗が最適な状態で生育できるよう、適切な水量・温度で管理されている	施設の管理記録	自家育苗の場合
4.定植作業	01	事前に移植機の設定(株間・施肥量)などを確認し、移植精度の向上に努めましたか		事前に移植機に不具合がないかを確認している 移植機の各種設定を確認し、欠株の発生防止や施肥のムラが生じないように努めている		
	02	出荷計画に沿って、適期に定植を行いましたか		作期毎の出荷計画が周知されており、それに対応した定植を行うよう努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	03	圃場の状態・天候などを考慮し、適期に定植を行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、圃場の状態・天候を考慮し、適期定植に努めている(天候不順により播種できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
5.栽培管理	01	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
 苗立てを要する野菜類用チェックリスト用（様式420用）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
5.栽培管理	02	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書などを参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	03	追肥を行う場合は、農協等が定める栽培基準などに基づき適期に施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書などを参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	追肥を行っていない場合
	04	被覆資材(マルチ、不織布)を使用する場合は、使用する目的に応じた適切な資材の選択を行い、生育に応じた適期除去に努めていますか		被覆資材は、生育状況・収穫時期を考慮し、農協などの指導に従い除去している 除去した被覆資材は、農協などの指導に従い、適切に処分している	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	被覆資材を使用していない場合
	6.収穫作業	01	出荷計画に沿って、適期に収穫作業を行いましたか		作期毎の出荷計画が周知されており、それに応じた収穫を行うよう努めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌
02		収穫を行う際は、規格外品を発生させないよう、出荷規格に従った作業を行いましたか	○	作業員に出荷規格基準について周知し、収穫作業時の規格外品の発生を抑えるよう努めている		
03		収穫に刃物を使用する場合、作業員の安全に十分配慮していますか	○	刃物類の取扱い上の注意事項が、作業員に周知できている		収穫に刃物類を使用しない場合
04		収穫に用いる鋏・包丁など刃物類は、清潔な状態で適切に管理していますか	○	刃物類を介しての病害汚染について理解している 刃物類は使用の都度洗うなど、清潔に管理されている 刃物類の保管場所を定め、使用していない時はそこに保管している		収穫に刃物類を使用しない場合
05		収穫に使用する資材や機械の洗浄・清掃等、収穫物や梱包資材の汚れ防止対策を実施しましたか	○	収穫用の機械・包装資材の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 包装資材は、農薬・肥料などとは別の場所で保管している		
06		収穫・箱詰め・搬出の際、規格外品・異物混入・病原菌による汚染や農薬付着などの防止対策を行いましたか	○	箱詰めを行う現場で、土の付着・異物の混入を防ぐ対策が取られている 収穫物を運搬に使うトラックなどの荷台は、土・農薬・肥料などがなく清潔な状態である トイレ・手洗い場は、作業場所から隔離されたところにある トイレに行った後は手を洗うなど、衛生管理が作業員に徹底されている		
07		残渣などは堆肥として利用したり、すき込むなどして適切に処分しましたか	○	残渣物を有機質資源として活用するよう努めている		
	08	作業員が感染症にかかっていると思われる場合、あるいは衛生上不適切な状態にあると思われる場合は、可食部に直接触れる作業をさせないようにしていますか	○	作業員に下痢・嘔吐・発熱などの症状があり、感染症にかかっていると疑われる場合は、可食部に触れる作業をさせない 作業前・堆肥に触れた後・トイレの後など、必要に応じて手洗いの実施を徹底する 作業員が、清潔な作業着や手袋等を身に付けていることや、手足の傷は隠れているかなどを確認する		
7.出荷管理	01	共同選別施設・集出荷施設への搬入に当たっては、搬入計画に従い行いましたか		受入施設の集荷計画に沿った、収穫・搬出に努めている		共同施設への搬入を行わない場合
	02	出荷に係る記録を適切に保管していますか	○	出荷記録は、以下の記録を網羅していること 品名、出荷元の名称・所在地、出荷先の名称・所在地、出荷年月日、出荷量、残留農薬検査等を実施した場合の記録、出荷記録の保管期間は流通実態に応じて決められていること(1～3年)	左記の通り	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
 施設野菜類用チェックリスト用（様式430対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.施設関係	01	作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか	○	作業機械および生産施設は、適時点検整備を行い、使用時の誤作動、異物・異品種の混入などが生じないようにしている	機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	
	02	施設は整理され清潔に管理されていますか	○	施設・機械は適時清掃され清潔な状態に保たれており、病虫害の発生や、異物・異品種の混入が生じないようにしている		
	03	施設内に小動物や昆虫が、侵入・発生しないよう対策をとっていますか	○	施設内に小動物・昆虫が侵入しない対策が取られている 侵入した場合は、速やかに駆除し、蔓延させないように努めている 原則として毒餌は使用していない(やむを得ず使用する場合は、周辺に散らばらないようにしている)		
	04	施設毎に安全管理に係るマニュアルがあり、その内容が作業者に徹底されていますか	○	危険箇所には注意を喚起する表示がなされている 施設の操作、作業手順が定められており、作業者に周知されている	作業マニュアル 施設マニュアル	
	05	搬送用資材の洗浄・清掃等、異物や異品種の混入、病原性微生物による汚染等を未然に防ぐ対策を実施していますか	○	作業道具、包装資材の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 包装資材は、農薬・肥料などとは別の場所で保管している 施設内で苗などを運搬に使う台車類には、土・農薬・肥料などが付着していない		
	06	施設の温度並びに水管理は適切にされていますか	○	育苗施設は苗の汚染がないよう清潔に管理している 苗が最適な状態で生育できるよう、適切な水量・温度で管理している	施設の管理記録	
	07	施設の使用および作業内容を記録し、保管していますか	○	生産物の入出庫台帳が整備されており、所定の期間保管されている 施設・作業機械の整備記録があり、所定の期間保管されている	入出庫台帳 機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	
	08	作業機械・施設等の使用及び導入に当たっては、省エネルギーに努めていますか	○	燃料の節約・節電など、無駄なエネルギーの使用を控え、施設・機械の効率的な運用に努めている		
	09	セイヨウオオハナマルハナバチの使用に当たっては、許可を取得し適切に使用している	○	セイヨウオオマルハナバチを受粉に使用する際は、所定の規則に従って実施している		セイヨウオオハナマルハナバチ使用のない場合
2.播種・定植作業	01	播種前に品種名の確認を行いましたか		種子・苗の取り違えがないよう、品種名を確認している		
	02	出荷計画に沿って、適期に播種・定植作業を行いましたか		作期毎の出荷計画が周知されており、それに対応した播種・定植を行うよう努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
3.栽培管理	01	肥料は作物の特性に応じて計画的に施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書などを参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	02	土壌診断に基づき、効率的な施肥を心掛けていますか	○	土壌診断は4～5年に1回以上を目安に実施することを基本としているが、多年性作物やハウス栽培では、1～2年に一度pH・ECを測定していれば、土壌診断の間隔が5年を超えてもかまわない 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	養液栽培の場合

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
施設野菜類用チェックリスト用（様式430対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
3.栽培管理	03	養液栽培の場合は、培養液の汚染の防止に必要な対策の実施している	○	培養液の汚染防止対策として、栽培液の定期的な交換、ポンプ・パイプ類の清掃、小動物侵入防止対策が取られている		露地栽培の場合
4.収穫作業	01	出荷計画に沿って、適期に収穫作業を行いましたか		作期毎の出荷計画が周知されており、それに応じた収穫を行うよう努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	02	収穫を行う際は、規格外品を発生させないよう、出荷規格に従った作業を行いましたか		作業員に出荷規格基準について周知し、収穫作業時の規格外品の発生を抑えるよう努めている		収穫に刃物類を使用しない場合
	03	収穫に刃物を使用する場合、作業員の安全に十分配慮していますか	○	刃物類の取扱い上の注意事項が、作業員に周知されている		収穫に刃物類を使用しない場合
	04	収穫に用いる鋏・包丁など刃物類は、清潔な状態で適切に管理していますか	○	刃物類を介しての病害汚染について理解している 刃物類は使用の都度洗うなど、清潔に管理されている 刃物類の保管場所を定め、使用していない時はそこに保管している		収穫に刃物類を使用しない場合
	05	出荷の際洗浄に使用する水は、飲用に適した水を使用している	○	水質検査を行い、安全な水であることを確認して使用している	水質検査の記録	水洗しない場合 水道水を使用する場合
	06	収穫に使用する資材や機械の洗浄・清掃等、収穫物や梱包資材の汚れ防止対策を実施しましたか	○	収穫用の機械・包装資材の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 包装資材は、農薬・肥料などとは別の場所で保管している		
	07	収穫・箱詰め・搬出の際、規格外品・異物混入・病原菌による汚染や農薬付着などの防止対策を行いましたか	○	箱詰めを行う現場で、土の付着・異物の混入を防ぐ対策が取られている 収穫物を運搬に使うトラックなどの荷台は、土・農薬・肥料などがなく清潔な状態である トイレ・手洗い場は、作業場所から隔離されたところにある トイレに行った後は手を洗うなど、衛生管理が作業員に徹底されている		
	08	残渣などは堆肥として利用したり、すき込むなどして適切に処分しましたか	○	残渣物を有機質資源として活用するよう努めている		
	09	作業員が感染症にかかっていると思われる場合、あるいは衛生上不適切な状態にあると思われる場合は、可食部に直接触れる作業をさせないようにしていますか	○	作業員に下痢・嘔吐・発熱などの症状があり、感染症にかかっていると疑われる場合は、可食部に触れる作業をさせない 作業前・堆肥に触れた後・トイレの後など、必要に応じて手洗いの実施を徹底する 作業員が、清潔な作業着や手袋等を身に付けていることや、手足の傷は隠れているかなどを確認する		
5.出荷管理	01	共同選別施設・集出荷施設への搬入に当たっては、搬入計画に従い行いましたか (該当しない：共同出荷していない場合)		受入施設の集荷計画に沿った、収穫・搬出に努めている		共同施設への搬入を行わない場合
	02	出荷に係る記録を適切に保管していますか	○	出荷記録は、以下の記録を網羅していること 品名、出荷元の名称・所在地、出荷先の名称・所在地、出荷年月日、出荷量、残留農薬検査等を実施した場合の記録、出荷記録の保管期間は流通実態に応じて決められていること(1～3年)	左記の通り	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
アスパラガス用チェックリスト（様式451対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.圃場準備	01	新たに作付けを予定している圃場は、定植後の生育を安定させるため、土壌改良・透排水性の改善を十分に行いましたか		アスパラは多年生で、深根生の作物なので、定植前の土壌改良・透排水性の改善が、安定した生産を継続する上で重要なことと理解できており、そのための対策が実行できている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	当年圃場設置を行わない場合
2.施設関係	01	育苗用の施設は清潔な状態で、かつ温度管理を適切に行いましたか	○	育苗施設は苗の汚染がないよう清潔に管理している 苗が最適な状態で生育できるよう、適切な水量・温度で管理している	施設の管理記録	当年圃場設置を行わない場合
3.栽培管理	01	定植当年にマルチをした場合は、適期に除去を行いましたか		被覆資材は、生育状況・収穫時期を考慮し、農協などの指導に従い除去している 除去した被覆資材は、農協などの指導に従い、適切に処分している	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	マルチを使用していない場合 当年圃場設置を行わない場合
	02	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	土壌診断は4～5年に1回以上を目安に実施することを基本としているが、多年性作物やハウス栽培では、1～2年に一度pH・ECを測定していれば、土壌診断の間隔が5年を超えてもかまわない 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
	03	前年の収穫打ち切り後は、支柱を立てるなど茎葉の倒伏防止に努めましたか		次年度の生産性を確保するため、収穫後、晩秋まで健全な状態で維持管理するよう努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	04	茎葉処理は、堆肥として利用するなどして適切に処分しましたか	○	残渣物を有機質資源として活用するよう努めている		
	05	ホワイトアスパラガスの栽培に遮光シートを使用する場合は、遮光シートは清潔な状態で維持され、病虫害が蔓延しないよう、適切に管理していますか		遮光シート内で病虫害が蔓延しないよう、適切な管理に努めている		グリーンアスパラガスの場合
4.収穫作業	01	生育状況を観察し、適期に収穫作業を行うことができましたか		アスパラの生育に応じた適期収穫に努めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	02	収穫を行う際は、規格外品を発生させないよう、出荷規格に従った作業を行いましたか		作業員に出荷規格基準について周知し、収穫作業時の規格外品の発生を抑えるよう努めている		
	03	収穫に刃物を使用する場合、作業員の安全に十分配慮していますか	○	刃物類の取扱い上の注意事項が、作業員に周知できている		収穫に刃物類を使用しない場合
	04	収穫に用いる鋏・包丁など刃物類は、清潔な状態で適切に管理していますか	○	刃物類を介しての病害汚染について理解している 刃物類は使用の都度洗うなど、清潔に管理されている 刃物類の保管場所を定め、使用していない時はそこに保管している		収穫に刃物類を使用しない場合
	05	収穫に使用する資材や機械の洗浄・清掃等、収穫物や梱包資材の汚れ防止対策を実施しましたか	○	収穫用の機械・包装資材の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 包装資材は、農薬・肥料などとは別の場所で保管している		
	06	収穫・箱詰め・搬出の際、規格外品・異物混入・病原菌による汚染や農薬付着などの防止対策を行いましたか	○	箱詰めを行う現場で、土の付着・異物の混入を防ぐ対策が取られている 収穫物を運搬に使うトラックなどの荷台は、土・農薬・肥料などがなく清潔な状態である トイレ・手洗い場は、作業場所から隔離されたところにある トイレに行った後は手を洗うなど、衛生管理が作業員に徹底されている		

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
 にんにく用チェックリスト（様式452対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.圃場準備	01	連作障害による生産力の低下を招かないよう、計画的な輪作を行っていますか		連作で生じる問題を理解し、適切な輪作を行うよう努めている	圃場管理台帳など(圃場毎の輪作期間を確認できる資料)	
	02	良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか		適切な播種条件を整えるため、土壌水分・天候に注意して作業を行うよう努めている(天候不順により作業できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	栽培日誌	
2.播種作業	01	播種前に品種名の確認を行いましたか		種子の取り違えがないよう、播種前に品種名の確認をしている		
	02	種球は、ウイルス病の感染が疑われるものや、極端に形状の悪いものを用いないようにしましたか		ウイルス病の蔓延による収量と品質の低下を招かないよう、ウイルスフリーの種球を確保している 出芽後の生育が安定するよう、播種前に不良形状球を排除し、使用する種球の形状を揃えている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	03	消毒を行った種子を使用しましたか		種子消毒の重要性を理解している 消毒済み種子を購入している、あるいは自分で種子消毒を行う場合は、農協等が定める農業使用ガイドなどに基づく薬剤により、使用量・回数を守って行っている	当年の農業使用ガイドなど	
	04	圃場の状態・天候などを考慮し、適期に植付けを行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、圃場の状態・天候を考慮し、適期播種に努めている(天候不順により播種できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	05	播種作業時には、種子の深さなど播種精度の向上に努めましたか		良好な発芽条件を整え、出芽精度向上による栽植密度を確保するため、播種精度の向上に努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
3.栽培管理	01	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
	02	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書などを参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	03	追肥を行う場合は、農協等が定める栽培基準などに基づき適期に施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書などを参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	追肥を行っていない場合
	04	被覆資材(マルチ、不織布)を使用する場合は、使用する目的に応じた適切な資材の選択を行い、生育に応じた適期除去に努めていますか		使用目的(地温確保、雑草対策、病害虫対策etc.)に合わせてマルチの選択を行っている 被覆資材は、生育状況・収穫時期を考慮し、農協などの指導に従い除去している 除去した被覆資材は、農協などの指導に従い、適切に処分している		被覆資材を使用していない場合
	05	作物の状態を観察し、残す株を傷めないよう、適期に除けつを行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、適期に除けつを行うよう努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	06	作物の状態を観察し、適期にとう摘みを行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、適期にとう摘みを行うよう努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
にんにく用チェックリスト（様式452対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
4.収穫作業	01	生育状況を観察し、適期に収穫作業を行うことができましたか		にんにくの生育に応じた、適期収穫に努めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	02	収穫を行う際は、規格外品を発生させないよう、出荷規格に従った作業を行いましたか		作業員に出荷規格基準について周知し、収穫作業時の規格外品の発生を抑えるよう努めている		
	03	収穫に刃物を使用する場合、作業員の安全に十分配慮していますか	○	刃物類の取扱い上の注意事項が、作業員に周知できている		
	04	収穫に用いる鋏・包丁など刃物類は、清潔な状態で適切に管理していますか	○	刃物類を介しての病害汚染について理解している 刃物類は使用の都度洗うなど、清潔に管理されている 刃物類の保管場所を定め、使用していない時はそこに保管している		
	05	収穫に使用する資材や機械の洗浄・清掃等、収穫物や梱包資材の汚れ防止対策を実施しましたか	○	収穫用の機械・包装資材の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 包装資材は、農薬・肥料などとは別の場所で保管している		
	06	収穫・箱詰め・搬出の際、規格外品・異物混入・病原菌による汚染や農薬付着などの防止対策を行いましたか	○	箱詰めを行う現場で、土の付着・異物の混入を防ぐ対策が取られている 収穫物を運搬に使うトラックなどの荷台は、土・農薬・肥料などがなく清潔な状態である トイレ・手洗い場は、作業場所から隔離されたところにある トイレに行った後は手を洗うなど、衛生管理が作業員に徹底されている		
	07	残渣などは堆肥として利用したり、すき込むなどして適切に処分しましたか	○	残渣物を有機質資源として活用するよう努めている		共同施設への搬入を行わない場合
	08	乾燥機を使用する場合は、品質を落とさないよう適切な温度と期間をかけて作業を行いましたか		乾燥機は事前に清掃・点検を行い、作業に支障をきたさないよう整備されている 乾燥機の温度・乾燥にかかる時間は、乾燥状況を見極めて適切に判断している	作業マニュアル 施設マニュアル 各種点検記録	乾燥機を使用していない場合
	09	作業員が感染症にかかっていると思われる場合、あるいは衛生上不適切な状態にあると思われる場合は、可食部に直接接触する作業をさせないようにしていますか	○	作業員に下痢・嘔吐・発熱などの症状があり、感染症にかかっていると疑われる場合は、可食部に触れる作業をさせない 作業前・堆肥に触れた後・トイレの後など、必要に応じて手洗いの実施を徹底する 作業員が、清潔な作業着や手袋等を身に付けていることや、手足の傷は隠れているかなどを確認する		
5.出荷管理	01	共同選別施設・集出荷施設への搬入に当たっては、搬入計画に従い行いましたか		受入施設の集荷計画に沿った、収穫・搬出に努めている		共同施設への搬入を行わない場合
	02	出荷に係る記録を適切に保管していますか	○	出荷記録は、以下の記録を網羅していること 品名、出荷元の名称・所在地、出荷先の名称・所在地、出荷年月日、出荷量、残留農薬検査等を実施した場合の記録、出荷記録の保管期間は流通実態に応じて決められていること(1～3年)	左記の通り	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
 ゆりね用チェックリスト（様式453対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.種子準備	01	収量・品質を確保するため、ウイルスフリー球(苗)を使用しましたか		ウイルス病の蔓延による収量と品質の低下を招かないよう、ウイルスフリーの種球を確保している	苗の購入記録	
2.圃場準備	01	連作障害による生産力の低下を招かないよう、計画的な輪作を行っていますか		適切な播種条件を整えるため、土壌水分・天候に注意して行うよう努めている	圃場管理台帳など(圃場毎の輪作期間を確認できる資料)	
	02	良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか		適切な播種条件を整えるため、土壌水分・天候に注意して作業を行うよう努めている (天候不順により作業できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	栽培日誌	
3.播種作業	01	種球は、極端に形状の悪いものを用いないようにしましたか		出芽後の生育が安定するよう、播種前に不良形状球を排除し、使用する種球の形状を揃えている		
	02	病害の発生が懸念される場合など、種子消毒の必要がある場合は適切に行いましたか		病害感染の可能性のある種球を増殖用に供する場合は、種子消毒を行っている 種子消毒は、農協等が定める農薬使用ガイドなどに基づく薬剤により、使用量・回数を守って行っている	農薬使用ガイドなど	種子消毒の必要がない場合
	03	圃場の状態・天候などを考慮し、適期に播種を行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、圃場の状態・天候を考慮し、適期播種に努めている (天候不順により播種できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	04	播種作業時には、種子の深さなど播種精度の向上に努めましたか		良好な発芽条件を整え、出芽精度向上による栽植密度を確保するため、播種精度の向上に努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
4.栽培管理	01	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
	02	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	03	追肥を行う場合は、農協等が定める栽培基準などに基づき適期に施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	追肥を行っていない場合
	04	摘蕾は、生育に応じて適期に行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、適期に摘蕾を行うよう努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
5.収穫作業	01	生育状況を観察し、適期に収穫作業を行うことができましたか		ゆりねの生育に応じた適期に収穫に務めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	02	収穫を行う際は、球根に傷をつけないよう、注意して作業を行いましたか		作業者に出荷規格基準について周知し、収穫作業時の規格外品の発生を抑えるよう努めている		

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
 スイートコーン用チェックリスト（様式454対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.圃場準備	01	連作障害による生産力の低下を招かないよう、計画的な輪作を行っていますか		連作で生じる問題を理解し、適切な輪作を行うよう努めている	圃場管理台帳など(圃場毎の輪作期間を確認できる資料)	
	02	良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか		適切な播種条件を整えるため、土壌水分・天候に注意して作業を行うよう努めている(天候不順により作業できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	栽培日誌	
	03	デントコーンと交雑(キセニア)を起こさないよう、圃場選定を行いましたか		事前に周辺のデントコーン栽培圃場の位置を把握し、農協等の指導する適切な栽培距離を取るよう努めている。また、やむを得ず、距離が不十分な場合は、隔離措置を取る等の対応を取っている。	栽培日誌	
2.播種作業	01	播種前に品種名の確認を行いましたか		種子の取り違えがないよう、播種前に品種名の確認をしている		
	02	消毒を行った種子を使用しましたか		種子消毒の重要性を理解している 消毒済み種子を購入している、あるいは自分で種子消毒を行う場合は、農協等が定める農業使用ガイドなどに基づく薬剤により、使用量・回数を守って行っている	当年の農業使用ガイドなど	
	03	播種計画に沿って、適期に播種を行いましたか		出荷計画が周知されており、それに対応できるよう、適期播種に努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	04	圃場の状態・天候などを考慮し、適期に播種を行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、圃場の状態・天候を考慮し、適期播種に努めている(天候不順により播種できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	05	事前に播種機の設定(播種量・株間・施肥量)を確認し、播種精度の向上に努めましたか		事前に播種機に不具合がないかを確認している 播種機の各種設定を確認し、欠株の発生防止や施肥のムラが生じないように努めている		
3.栽培管理	01	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
	02	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	03	追肥を行う場合は、農協等が定める栽培基準などに基づき適期に施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	追肥を行っていない場合
	04	被覆資材(マルチ、不織布)を使用する場合は、使用する目的に応じた適切な資材の選択を行い、生育に応じた適期除去に努めていますか		使用目的(地温確保、雑草対策、病害虫対策etc.)に合わせてマルチの選択を行っている 被覆資材は、生育状況・収穫時期を考慮し、農協などの指導に従い除去している 除去した被覆資材は、農協などの指導に従い、適切に処分している		被覆資材を使用していない場合
	05	間引きを行う場合は、作物の状態を観察し、残す株を傷めないよう、適期に行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、適期に間引きを行うよう努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	間引きを行う必要のない場合

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
 スイートコーン用チェックリスト（様式454対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
4.収穫作業	01	生育状況を観察し、適期に収穫作業を行うことができましたか		スイートコーンの生育に応じた適期に収穫に務めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	収穫を業務委託している場合
	02	収穫を行う際は、規格外品を発生させないよう、出荷規格に従った作業を行いましたか		作業員に出荷規格基準について周知し、収穫作業時の規格外品の発生を抑えるよう努めている		収穫を業務委託している場合
	03	収穫に使用する資材や機械の洗浄・清掃等、収穫物や梱包資材の汚れ防止対策を実施しましたか	○	収穫用の機械・包装資材の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 包装資材は、農薬・肥料などとは別の場所で保管している		収穫を業務委託している場合
	04	収穫・箱詰め・搬出の際、規格外品・異物混入・病原菌による汚染や農薬付着などの防止対策を行いましたか	○	箱詰めを行う現場で、土の付着・異物の混入を防ぐ対策が取られている 収穫物を運搬に使うトラックなどの荷台は、土・農薬・肥料などがなく清潔な状態である トイレ・手洗い場は、作業場所から隔離されたところにある トイレに行った後は手を洗うなど、衛生管理が作業員に徹底されている		収穫を業務委託している場合
	05	残渣などは堆肥として利用したり、すき込むなどして適切に処分しましたか	○	残渣物を有機質資源として活用するよう努めている		収穫を業務委託している場合
	06	作業員が感染症にかかっていると思われる場合、あるいは衛生上不適切な状態にあると思われる場合は、可食部に直接接触する作業をさせないようにしていますか	○	作業員に下痢・嘔吐・発熱などの症状があり、感染症にかかっていると疑われる場合は、可食部に触れる作業をさせない 作業前・堆肥に触れた後・トイレの後など、必要に応じて手洗いの実施を徹底する 作業員が、清潔な作業着や手袋等を身に付けていることや、手足の傷は隠れているかなどを確認する		
5.出荷管理	01	共同選別施設・集出荷施設への搬入に当たっては、搬入計画に従い行いましたか		受入施設の集荷計画に沿った、収穫・搬出に努めている		共同施設への搬入を行わない場合
	02	出荷に係る記録を適切に保管していますか	○	出荷記録は、以下の記録を網羅していること 品名、出荷元の名称・所在地、出荷先の名称・所在地、出荷年月日、出荷量、残留農薬検査等を実施した場合の記録、出荷記録の保管期間は流通実態に応じて決められていること(1～3年)	左記の通り	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
にら用チェックリスト（様式455対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.圃場準備	01	新たに作付けを予定している圃場は、定植後の生育を安定させるため、土壌改良・透排水性の改善を十分に行いましたか		定植前の土壌改良・透排水性の改善が、安定した生産を継続する上で重要なことと理解できており、そのための対策が実行できている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	当年新たに圃場設置を行わない場合
2.施設関係	01	ハウス栽培を行っている場合、ハウス内は整理され清潔に管理されていますか	○	施設・機械は適時清掃され清潔な状態に保たれており、病虫害の発生や、異物・異品種の混入が生じないようにしている		ハウス栽培を行っていない場合
	02	ハウス栽培を行っている場合、小動物や昆虫が、侵入・発生しないよう対策をとっていますか	○	施設内に小動物・昆虫が侵入しない対策が取られている 侵入した場合は、速やかに駆除し、蔓延させないように努めている 原則として毒餌は使用していない(やむを得ず使用する場合は、周辺に散らばらないようにしている)		ハウス栽培を行っていない場合
	03	ハウス栽培を行っている場合、搬送用資材の洗浄・清掃等、異物や異品種の混入・病原性微生物による汚染等を未然に防ぐ対策を実施していますか	○	作業道具、包装資材の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 包装資材は、農薬・肥料などは別の場所で保管している 施設内で苗などを運搬に使う台車類には、土・農薬・肥料などが付着していない		ハウス栽培を行っていない場合
	04	ハウス栽培を行っている場合、温度並びに水管理は適切にされていますか	○	育苗施設は苗の汚染がないよう清潔に管理している 苗が最適な状態で生育できるよう、適切な水量・温度で管理している	施設の管理記録	ハウス栽培を行っていない場合
	05	ハウス栽培を行っている場合、使用および作業内容を記録し、保管していますか	○	生産物の入出庫台帳が整備されており、所定の期間保管されている 施設・作業機械の整備記録があり、所定の期間保管されている	入出庫台帳 機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	ハウス栽培を行っていない場合
3.播種・定植作業	01	播種前に品種名の確認を行いましたか		種子の取り違えがないよう、播種前に品種名の確認をしている		
4.栽培管理	02	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	土壌診断は4～5年に1回以上を目安に実施することを基本としているが、多年性作物やハウス栽培では、1～2年に一度pH・ECを測定していれば、土壌診断の間隔が5年を超えてもかまわない 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
5.収穫作業	01	生育状況を観察し、適期に収穫作業を行うことができましたか		にらの生育に応じた適期収穫に努めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	02	収穫を行う際は、規格外品を発生させないよう、出荷規格に従った作業を行いましたか		作業員に出荷規格基準について周知し、収穫作業時の規格外品の発生を抑えるよう努めている		
	03	収穫に刃物を使用する場合、作業員の安全に十分配慮していますか	○	刃物類の取扱い上の注意事項が、作業員に周知できている		収穫に刃物類を使用しない場合
	04	収穫に用いる鋏・包丁など刃物類は、清潔な状態で適切に管理していますか	○	刃物類を介しての病害汚染について理解している 刃物類は使用の都度洗うなど、清潔に管理されている 刃物類の保管場所を定め、使用していない時はそこに保管している		収穫に刃物類を使用しない場合
	05	収穫に使用する資材や機械の洗浄・清掃等、収穫物や梱包資材の汚れ防止対策を実施しましたか	○	収穫用の機械・包装資材の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 包装資材は、農薬・肥料などは別の場所で保管している		

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
ながいも用チェックリスト用（様式510対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.種子準備	01	種いもは全量更新用種子を使用しましたか		不良種子を使用することによる、出芽不良や収量・品質の低下を招かないよう、種子審査に合格した更新用種子を使用している	種子の購入記録	
	02	消毒を行った種子を使用しましたか		種子消毒の重要性を理解している 消毒済み種子を購入している、あるいは自分で種子消毒を行う場合は、農協等が定める農薬使用ガイドなどに基づく薬剤により、使用量・回数を守って行っている	当年の農薬使用ガイドなど	
	03	種いも消毒後は、腐敗させず、また乾燥し過ぎないよう適切な状態で保管しましたか		発芽障害を起こさないよう、種いも消毒後の管理を適切に行っている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	04	種いもの切断に使う包丁など刃物類は、清潔な状態で適切に管理していますか		刃物類を介しての病害汚染について理解している 刃物類は使用の都度洗うなど、清潔に管理されている 刃物類の保管場所を定め、使用していない時はそこに保管している	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	05	キュアリングおよび催芽は、温度・湿度を適切に管理し、換気を十分にしていますか		発芽障害を起こさないよう、キュアリング・催芽は適切な状態で行っている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
2.圃場準備	01	連作障害による生産力の低下を招かないよう、計画的な輪作を行っていますか		連作で生じる問題を理解し、適切な輪作を行うよう努めている	圃場管理台帳など(圃場毎の輪作期間を確認できる資料)	
	02	良好な播種条件を整えるため、耕起・整地作業は、適切な圃場状態で行いましたか		適切な播種条件を整えるため、土壌水分・天候に注意して作業を行うよう努めている (天候不順により作業できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	栽培日誌	
3.播種作業	01	播種時には、不良種子の選別を徹底し、芽の位置が正しくなるように作業を行いましたか		欠株を生じないよう、農協等が定める栽培基準などを参考に、播種作業を適切に行っている		
4.栽培管理	01	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
	02	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	03	追肥を行う場合は、農協等が定める栽培基準などに基づき適期に施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	追肥を行っていない場合
	04	被覆資材(不織布、マルチ)を使用している場合は、適期に除去を行いましたか		被覆資材は、生育状況・収穫時期を考慮し、農協などの指導に従い除去している 除去した被覆資材は、農協などの指導に従い、適切に処分している	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	被覆資材を使用していない場合

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
ながいも用チェックリスト用（様式510対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
4.栽培管理	05	種子生産圃場は、病害株・異品種・異形株の抜き取りを実施するなど、関係機関・農協の指導に従い管理しましたか		関係機関の定める採種圃設置指導要領や、農協等の指導に従い、適切に管理されている 所定の検査機関による審査(圃場・生産物)に合格している	種子生産指導要領 栽培日誌 など	種子生産者以外
5.収穫作業	01	生育状況を観察し、適期に収穫作業を行うことができましたか		生育状況を観察し、圃場の状態・天候を考慮した上で、適期収穫に努めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	02	収穫に使用する資材や機械の洗浄・清掃等、収穫物や梱包資材の汚れ防止対策を実施しましたか	○	収穫用の機械・包装資材の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 包装資材は、農薬・肥料などとは別の場所で保管している		
	03	収穫や搬入の際、規格外品・異物混入・病原菌による汚染や農薬付着などの防止対策を行いましたか	○	箱詰めを行う現場で、土の付着・異物の混入を防ぐ対策が取られている 収穫物を運搬に使う、トラックなどの荷台は、土・農薬・肥料などがなく清潔な状態である トイレに行った後は手を洗うなど、衛生管理が作業者に徹底されている		
	04	残渣などは堆肥として利用したり、すき込むなどして適切に処分しましたか	○	残渣物を有機質資源として活用するよう努めている		
	05	茎葉ネットの処分を適切に行いましたか	○	茎葉ネットの処分は、農協などの指導に従い、適切に行っている		茎葉ネットを使用しない場合
	06	支柱を片付ける際は、荷崩れなどが起きないように、安全な状態で搬送し保管しましたか		支柱は、荷崩れなどを起こさないよう、安全な状態で保管場所まで搬送している 支柱は、荷崩れしないよう、固定された状態で保管している 破損したものは修理・交換するなど、次年度も支障なく使用できるような状態になっている		
	07	作業者が感染症にかかっていると思われる場合、あるいは衛生上不適切な状態にあると思われる場合は、可食部に直接接触する作業をさせないようにしていますか	○	作業者に下痢・嘔吐・発熱などの症状があり、感染症にかかっていると疑われる場合は、可食部に触れる作業をさせない 作業前・堆肥に触れた後・トイレの後など、必要に応じて手洗いの実施を徹底する 作業員が、清潔な作業着や手袋等を身に付けていることや、手足の傷は隠れているかなどを確認する		
6.出荷管理	01	共同選別施設・集出荷施設への搬入に当たっては、搬入計画に従い行いましたか		受入施設の集荷計画に沿った、収穫・搬出に努めている		共同施設への搬入を行わない場合
	02	出荷に係る記録を適切に保管していますか	○	出荷記録は、以下の記録を網羅していること 品名、出荷元の名称・所在地、出荷先の名称・所在地、出荷年月日、出荷量、残留農薬検査等を実施した場合の記録、出荷記録の保管期間は流通実態に応じて決められていること(1～3年)	左記の通り	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
米用チェックリスト用（様式610対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.共通事項	01	近隣地域における、過去のカドミウムや残留農薬の分析結果を知っていますか	○	カドミウム汚染米による健康被害について理解している 近隣地域における、過去のカドミウムや残留農薬の分析結果を掌握できている	近隣地域のカドミウム・残留農薬分析結果	
	02	生産圃場においてカドミウム汚染の可能性がある場合は、農協等の指導に従い、適切な低減対策を実施し、その効果を確認していますか	○	カドミウム濃度を定期的に測定し、基準値を超えた場合は、出穂後3週間の湛水管理等の低減対策を実施し、その効果を確認した上で、出荷の可否について決定する	カドミウム濃度分析値 低減対策の実施に係る文書	カドミウム汚染のない場合
2.圃場準備	01	前年の稲わらの野焼きをしていない	○	稲わらをすき込む、あるいは有機質資源として活用するよう努めている		
	02	代かき後の濁水や、農薬・肥料施用直後の水田水を流出させませんでしたか	○	代かき後の濁水や、農薬・肥料施用の流出を防止する手段をとっている		
	03	透排水性の改善対策を講じましたか		透排水性改善の大切さを理解し、それに努めている	圃場管理台帳など、圃場毎の実施状況を確認できる資料	
3.育苗	01	種子は全量更新用種子を用い、事前に品種名の確認を行いましたか		種子更新の重要性を理解し、それに努めている 種子の取り違えがないよう、播種前に品種名の確認をしている	種子の購入記録	
	02	消毒を行った種子を使用しましたか		種子消毒の重要性を理解している 消毒済み種子を購入している、あるいは自分で種子消毒を行う場合は、農協等が定める農薬使用ガイドなどに基づく薬剤により、使用量・回数を守って行っている	当年の農薬使用ガイドなど	
	03	種子消毒・浸種作業に使用するネットは、取り違え防止の品種表示をしましたか		種子消毒・浸種作業に使用するネットは、品種の取り違え・異品種混入等が生じないよう対策を講じている		1品種しか作付けていない場合
	04	播種機・催芽機は品種切替時に残留籾が残らないよう、清掃を行いましたか		播種機・催芽機を通じて、異品種混入が生じないよう対策をとっている		1品種しか作付けていない場合
	05	育苗中は、品種名と播種月日を明示していますか		育苗管理を適切に行うための表示を行っている		1品種しか作付けていない場合
4.移植	01	苗取り・苗運搬者には、移植品種の取り違えがないよう、明確に示しましたか		苗の取り違えがないよう、受領時に品種名の確認を行っている		1品種しか作付けていない場合
	02	品種切替時には、移植機を清掃し、付着した苗を除去しましたか		移植機を通じて、異品種混入が生じないよう対策をとっている		1品種しか作付けていない場合
	03	1圃場1品種の作付けとし、品種の混合や自然交雑を防止しましたか		品種の混合や自然交雑を防ぐことの重要性を理解し、1圃場1品種の作付けにしている		
	04	適正な栽植密度が確保されましたか		適正な栽植密度が確保されるよう、株間設定・欠株対策が取られている		
5.栽培管理	01	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
	02	生育状況を確認し、適切な水管理を行いましたか		生育状況に応じた適切な水管理ができている	栽培日誌	
	03	良質米生産のため、ケイ酸資材を施用しましたか		ケイ酸資材の有効性について理解し、農協などで作成した栽培暦などを参考に施用することができている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
米用チェックリスト用（様式610対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
6.防除	01	周辺圃場の他作物の収穫時期を確認しましたか		農業ドリフトなどのリスクを避けるため、周辺圃場の他作物の収穫時期を掌握できている		
7.収穫	01	圃場毎の熟期、収穫・乾燥・調整能力に応じた適期収穫を行いましたか		圃場毎の客観的なデータを活用し、適期収穫に努めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)		
	02	品種切替時に、コンバイン・乾燥設備などの清掃を行いましたか	○	異品種混入が生じないよう、コンバイン・乾燥設備などの清掃ができています		1品種しか作付けていない場合
	03	倒伏や病害虫による、被害籾・高水分籾を分けて収穫しましたか	○	倒伏や病害虫の発生した圃場の生産物は、未発生圃場とは分けて収穫し、出荷の際に取り違えのないよう明示するなど、被害米(病害米)の混入による、全体の品位低下を招かないようにしている		倒伏や病害虫被害が発生していなかった場合
	04	収穫作業を委託する場合は、管理者とオペレータとの責任分担が明確になっていますか	○	収穫作業に係る責任の所在が明確になっていること それに基づき、事故の際に迅速な対応が取れる体制が整備されていること		作業委託していない場合
8.共同乾燥	01	施設の搬入計画に従った収穫・搬入を行いましたか	○	施設の能力に応じた搬入計画を事前に立て、利用者に周知することができた	作業マニュアル 施設マニュアル 作業日誌	自乾者
	02	搬入時に品種名の確認を行いましたか	○	受入時に品種の取り違えを生じないよう確認を行っている		自乾者
	03	施設の運用に関する作業分担が明確になっていますか	○	収穫作業に係る責任の所在が明確になっていること それに基づき、事故の際に迅速な対応が取れる体制が整備されていること		自乾者
9.自乾者	01	作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか	○	作業前に、各設備の点検・整備を行い、不良箇所は速やかに修理しました	機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	共同乾燥者
	02	収穫後、速やかに規定水分まで乾燥しましたか	○	搬入後は速やかに規定水分まで落とすことができた	水分検査記録	共同乾燥者
	03	容器に貯留内容を明示し、品種・仕分け区分の取り違え防止策を講じましたか	○	貯留容器には誰でもわかるように、目立つところに品種名や区分が明示している	品種名・仕分け区分表示	共同乾燥者
	04	施設の周辺は常に清潔に保たれていますか	○	施設は整理され、異物などの混入が起こらないよう清潔に管理している		共同乾燥者
	05	袋詰め、農産物検査受検時に品種名を確認しましたか	○	現物の取り違えが生じないよう、指図と照合した上で検査に供試または、出荷している		共同乾燥者
10.出荷管理	01	集出荷施設への搬入に当たっては、搬入計画に従い行いましたか		受入施設の集荷計画に沿った、収穫・搬出に努めている		共同施設への搬入を行わない場合
	02	出荷に係る記録を適切に保管していますか	○	出荷記録は、以下の記録を網羅していること 品名、出荷元の名称・所在地、出荷先の名称・所在地、出荷年月日、出荷量、残留農薬検査等を実施した場合の記録、出荷記録の保管期間は流通実態に応じて決められていること(原則3年)	左記の通り	
	03	用途限定米穀・食用不適米穀の保管は適切になされていますか	○	用途限定米穀・食用不適米穀の区別が明確になっている。(保管上区分されている、票せんによる明示がされていること)		用途限定米穀、食用不適米穀がない

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
飼料作物用チェックリスト用（様式620対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.栽培管理	01	土壌診断に基づく、効率的な施肥を心掛けていますか	○	4～5年に1度を目安に土壌分析を行っている 施肥は、土壌診断結果に基づく施肥設計書や農協等の指導を参考に、効率的に行うよう努めている	土壌診断結果 施肥設計書 施肥の基準	
	02	飼料用とうもろこし圃場は、近隣圃場のスイートコーンと交雑しないよう、適切な距離をとっていますか		近隣圃場の状況を確認し、キセニアによるスイートコーンの品質低下を招かないよう、農協等の指導に基づき隔離するよう努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	飼料用とうもろこしを作付けていない場合
	03	肥料(基肥)は、施肥設計または農協等が定める栽培基準などに基づいて施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	
	04	分肥を行う場合は、農協等が定める栽培基準などに基づき適期に施用しましたか	○	肥料の選択に当たっては、農協などで作成した栽培暦や施肥の基準を参考にしている 施肥量は、農協等の作成する施肥の基準もしくは施肥設計書を参考にしている	農協などで作成した栽培暦 施肥の基準 栽培日誌	分肥をしていない場合
	05	圃場の状態・天候などを考慮し、適期に播種を行いましたか		農協などで作成した栽培暦などを参考に、圃場の状態・天候を考慮し、適期播種に努めている (天候不順により播種できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	06	事前に播種機の設定(播種量・株間・施肥量)を確認し、播種精度の向上に努めましたか		事前に播種機に不具合がないかを確認している 播種機の各種設定を確認し、欠株の発生防止や施肥のムラが生じないように努めている		
	07	草地の管理は、良質な粗飼料を供給できる適正な草種構成が維持されるよう努めていますか	○	有毒植物や雑草が繁茂していない マメ科混播草地では、マメ科率の低下を招かないような維持管理に努めている		牧草を作付けていない場合
2.収穫作業	01	事前に収穫機の設定を確認し、飼料の品質が最適になるように調整しましたか		飼料作物の種類と用途に応じた収穫を行っている		収穫作業を委託している場合
	02	生育状況を観察し、適期に収穫作業を行うことができましたか		生育状況を観察し、圃場の状態・天候を考慮した上で、適期収穫に努めている (天候不順により適期に収穫できないなど、やむを得ない場合はその限りではない)	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	収穫作業を委託している場合
	03	牧草収穫後、ロールを草地から速やかに搬出し、適切に保管しましたか		ロールを長期間草地に放置し、飼料の品質低下や、草地の裸地化を招かないようにしている		牧草を作付けていない場合
3.調整・保管	01	サイレージを調整する場合は、飼料の汚染・異物混入を防止するため、収穫後速やかに密封し貯蔵しましたか	○	サイレージの品質低下を招かないよう、速やかに作業を行っている		サイレージ調整しない場合
	02	サイレージを調整する場合は、農協等の指導に従い、適切な添加物を使用し、飼料が変質しないよう調整しましたか	○	サイレージの品質低下を招かないよう、添加剤の使用は、農協等の指導に従い適切に行っている		サイレージ調整しない場合

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
小麦乾燥施設用チェックリスト用（様式711対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.共通事項	01	作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか	○	作業機械および生産施設は、適時点検整備を行い、使用時の誤作動、異物・異品種の混入などが生じないようにしている	機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	
	02	作業機械・施設の整理・整頓・清掃を適時実施していますか	○	施設・機械は適時清掃され清潔な状態に保たれており、病害虫の発生や、異物・異品種の混入が生じないようにしている		
	03	異品種の混入を防止するため、作業開始時や品種の入れ換えに際して、施設の清掃を行いましたか	○	複数の品種を取り扱う施設の場合は、異品種混入の危険を回避するため、品種入れ替えの際は清掃を徹底している 1品種しか取り扱わない施設でも、ロットの異なる生産物の混入を避けるため、作業開始前に清掃を行うようにしている		
	04	作業の安全確保・事故防止を図るため、作業機械・施設の使用方法を守り、作業に当たる人の健康状態を都度確認していますか	○	作業機械や施設の説明書が所定の場所に保管されており、使用方法が使用者に周知されている 作業従事者の健康状態を都度確認し、無理な作業は行わせないなど、事故防止に努めている 修理工場・病院・作業員の自宅など、緊急連絡先が関係者にわかるようになっている	作業マニュアル 機械・施設の仕様書	
	05	安全管理に係るマニュアルがあり、その内容が作業者に徹底されていますか	○	危険箇所には注意を喚起する表示がなされている 施設の操作、作業手順が定められており、作業者に周知されている 作業中の異物混入・機械の巻きこまれ事故を防止するため、不要なものは身に付けていない	作業マニュアル 施設マニュアル	
	06	搬送用資材、作業道具や機器類は衛生的に管理されており、製品への異物混入、病原性微生物による汚染を未然に防ぐ対策を実施していますか	○	作業道具、出荷物保管容器等の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 生産物保管容器等は、農薬・肥料などとは別の場所で保管している 生産物を運ぶ台車類は、土・農薬・肥料などが付着していない		
	07	施設内に小動物や昆虫が、侵入・発生しないよう対策をとっていますか	○	施設内に小動物・昆虫が侵入しない対策が取られている 侵入した場合は、速やかに駆除し、蔓延させないように努めている 原則として毒餌は使用していない(やむを得ず使用する場合は、周辺に散らばらないようにしている)		
	08	施設の使用および作業内容を記録し、保管していますか	○	生産物の入出庫台帳が整備されており、所定の期間保管されている 施設の整備記録が取られており、所定の期間保管されている	入出庫台帳 機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	
	09	作業機械・施設等の使用及び導入に当たっては、省エネルギーに努めていますか	○	燃料の節約・節電など、無駄なエネルギーの使用を控え、施設・機械の効率的な運用に努めている		
	10	施設の責任者、作業に従事する人の役割が明確になっており、出荷物に苦情や事故が発生した場合速やかに対応できますか	○	施設の責任者と作業工程ごとの指揮系統・責任の所在が明確になっている 業務体制が周知されており、万が一の場合に迅速に対応できる	組織図・作業分担表 緊急時連絡網	1人で運用している施設の場合
2.乾燥施設	11	臭気・有害な煙・埃等は適切に排気していますか	○	作業場は必要に応じて換気されており、フォークリフトの排気臭や土埃りが作業員の健康を害しないよう対策をしている		
	01	施設の能力に応じた搬入計画を立て利用者に周知し、それに基づいた受入を行いましたか	○	施設の能力に応じた搬入計画を事前に立て、利用者に周知できている	搬入計画書 作業日誌	

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
共同育苗施設用チェックリスト用（様式721対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.共通事項	01	作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか	○	作業機械および生産施設は、適時点検整備を行い、使用時の誤作動、異物・異品種の混入などが生じないようにしている	機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	
	02	作業機械・施設の整理・整頓・清掃を適時実施していますか	○	施設・機械は適時清掃され清潔な状態に保たれており、病害虫の発生や、異物・異品種の混入が生じないようにしている		
	03	異品種の混入を防止するため、作業開始時や品種の入れ換えに際して、施設の清掃を行いましたか	○	複数の品種を取り扱う施設の場合は、異品種混入の危険を回避するため、品種入れ替えの際は清掃を徹底している 1品種しか取り扱わない施設でも、ロットの異なる生産物の混入を避けるため、作業開始前に清掃を行うようにしている		
	04	作業の安全確保・事故防止を図るため、作業機械・施設の使用方法を守り、作業に当たる人の健康状態を都度確認していますか	○	作業機械や施設の説明書が所定の場所に保管されており、使用方法が使用者に周知されている 作業従事者の健康状態を都度確認し、無理な作業は行わせないなど、事故防止に努めている 修理工場・病院・作業員の自宅など、緊急連絡先が関係者にわかるようになっている	作業マニュアル 機械・施設の仕様書	
	05	安全管理に係るマニュアルがあり、その内容が作業者に徹底されていますか	○	危険個所には注意を喚起する表示がなされている 施設の操作、作業手順が定められており、作業者に周知されている 作業中の異物混入・機械の巻きこまれ事故を防止するため、不要なものは身に付けていない	作業マニュアル 施設マニュアル	
	06	搬送用資材、作業道具や機器類は衛生的に管理されており、製品への異物混入、病原性微生物による汚染を未然に防ぐ対策を実施していますか	○	作業道具、出荷物保管容器等の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 生産物保管容器等は、農薬・肥料などとは別の場所で保管している 生産物を運ぶ台車類は、土・農薬・肥料などが付着していない		
	07	施設内に小動物や昆虫が、侵入・発生しないよう対策をとっていますか	○	施設内に小動物・昆虫が侵入しない対策が取られている 侵入した場合は、速やかに駆除し、蔓延させないように努めている 原則として毒餌は使用していない(やむを得ず使用する場合は、周辺に散らばらないようにしている)		
	08	施設の使用および作業内容を記録し、保管していますか	○	生産物の入出庫台帳が整備されており、所定の期間保管されている 施設の整備記録が取られており、所定の期間保管されている	入出庫台帳 機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	
	09	作業機械・施設等の使用及び導入に当たっては、省エネルギーに努めていますか	○	燃料の節約・節電など、無駄なエネルギーの使用を控え、施設・機械の効率的な運用に努めている		
	10	施設の責任者、作業に従事する人の役割が明確になっており、出荷物に苦情や事故が発生した場合速やかに対応できますか	○	施設の責任者と作業工程ごとの指揮系統・責任の所在が明確になっている 業務体制が周知されており、万が一の場合に迅速に対応できる	組織図・作業分担表 緊急時連絡網	自乾者の運用する施設の場合
2.播種作業	11	臭気・有害な煙・埃等は適切に排気していますか	○	作業場は必要に応じて換気されており、フォークリフトの排気臭や土埃りが作業員の健康を害しないよう対策をしている		
	01	播種前に品種名の確認を行いましたか	○	種子・苗の取り違えがないよう、品種名の確認を行っている		

平成30年度版十勝型GAP 生産者用チェックリスト解説書
共同育苗施設用チェックリスト用（様式721対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
2.播種作業	02	育苗にかかる日数を考慮し、適期に播種を行いましたか		作期毎の出荷計画が周知されており、それに対応できるよう苗床を整え、適期播種に努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌	
	03	育苗ポットなどの出荷台帳を整備し、保管していますか	○	育苗ポット・セルトレーなどの出荷記録が整備されており、所定の期間保管されている	出荷台帳	
	04	育苗ポットなどの運搬者には、品種の取り違えがないよう、明確に示しましたか	○	苗の取り違えがないよう、受領時に品種名の確認がなされている		
	05	育苗に使用する育苗土、または専用育苗資材は適切に保管していますか	○	育苗土は室内で保管している、屋外の場合は雨水や異物が侵入しないようカバーが掛けられている 専用資材についても濡れや動物の被害に遭わないよう管理されている		育苗土・専用育苗資材を使用しない場合
	06	育苗土は、土壌診断に基づき適正な状態で使用しましたか、または専用育苗資材は対象作物に適切な資材を使用しましたか	○	育苗土は、育苗に適正な化学性、物理性を確保している 専用育苗資材は対象作物の生育に適した資材を選定している	土壌診断結果 育苗資材購入伝票 (品質証明書)	育苗土・専用育苗資材を使用しない場合
	3.育苗施設	01	施設は整理され清潔に管理されていますか	○	施設・機械は適時清掃され清潔な状態に保たれており、病害虫の発生や、異物・異品種の混入が生じないようにしている	
02		育苗中は、品種名と播種月日を明示していますか	○	品種の取り違えや、育苗期間の違う苗が供給されないよう対策が取られている		
03		育苗施設の温度並びに水管理は適切にしていますか	○	育苗施設は苗の汚染がないよう清潔に管理している 苗が最適な状態で生育できるよう、適切な水量・温度で管理している	施設の管理記録	
04		苗の出荷台帳を整備し、保管していますか	○	苗の出荷記録が整備されており、所定の期間保管されている	苗の出荷台帳	
05		苗取り・苗運搬者には、移植品種の取り違えがないよう、明確に示しましたか	○	出荷時における品種の取り違え防止対策がとられている		

平成30年度版十勝型GAP 農協施設用チェックリスト解説書
育苗施設用チェックリスト用（様式811対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例	
1.共通事項	01	作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか	○	作業機械および生産施設は、適時点検整備を行い、使用時の誤作動、異物・異品種の混入などが生じないようにしている	機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類		
	02	作業機械・施設の整理・整頓・清掃を適時実施していますか	○	施設・機械は適時清掃され清潔な状態に保たれており、病害虫の発生や、異物・異品種の混入が生じないようにしている			
	03	異品種の混入を防止するため、作業開始時や品種の入れ換えに際して、施設の清掃を行いましたか	○	複数の品種を取り扱う施設の場合は、異品種混入の危険を回避するため、品種入れ替えの際は清掃を徹底している 1品種しか取り扱わない施設でも、ロットの異なる生産物の混入を避けるため、作業開始前に清掃を行うようにしている			
	04	作業の安全確保・事故防止を図るため、作業機械・施設の使用方法を守り、作業に当たる人の健康状態を都度確認していますか	○	作業機械や施設の説明書が所定の場所に保管されており、使用方法が使用者に周知されている 作業従事者の健康状態を都度確認し、無理な作業は行わせないなど、事故防止に努めている 修理工場・病院・作業員の自宅など、緊急連絡先が関係者にわかるようになっている	作業マニュアル 機械・施設の仕様書		
	05	施設毎に安全管理に係るマニュアルがあり、その内容が作業者に徹底されていますか	○	危険個所には注意を喚起する表示がなされている 施設の操作、作業手順が定められており、作業者に周知されている 作業中の異物混入・機械の巻きこまれ事故を防止するため、不要なものは身に付けていない	作業マニュアル 施設マニュアル		
	06	搬送用資材、作業道具や機器類は衛生的に管理されており、製品への異物混入、病原性微生物による汚染を未然に防ぐ対策を実施していますか	○	作業道具、出荷物保管容器等の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 生産物保管容器等は、農薬・肥料などとは別の場所で保管している 生産物を運ぶ台車類は、土・農薬・肥料などが付着していない			
	07	施設内に小動物や昆虫が、侵入・発生しないよう対策をとっていますか	○	施設内に小動物・昆虫が侵入しない対策が取られている 侵入した場合は、速やかに駆除し、蔓延させないように努めている 原則として毒餌は使用していない（やむを得ず使用する場合は、周辺に散らばらないようにしている）			
	08	施設の使用および作業内容を記録し、保管していますか	○	生産物の入出庫台帳が整備されており、所定の期間保管されている 施設の整備記録が取られており、所定の期間保管されている	入出庫台帳 機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類		
	09	作業機械・施設等の使用及び導入に当たっては、省エネルギーに努めていますか	○	燃料の節約・節電など、無駄なエネルギーの使用を控え、施設・機械の効率的な運用に努めている			
	10	施設の責任者が定められており、作業に従事する人の役割が明確であり文書化され、出荷物に苦情や事故が発生した場合速やかに対応できますか	○	施設の責任者と作業工程ごとの指揮系統・責任の所在が明確になっており、文書化されている 業務体制が周知されており、万が一の場合に迅速に対応できる	組織図・作業分担表 緊急時連絡網		
	11	臭気・有害な煙・埃等は適切に排気していますか	○	作業場は必要に応じて換気されており、フォークリフトの排気臭や土埃りが作業員の健康を害しないよう対策をしている	作業マニュアル 施設マニュアル		
2.播種作業	01	播種前に品種名の確認を行いましたか	○	種子・苗の取り違えがないよう、品種名の確認を行っている			
	02	育苗にかかる日数を考慮し、適期に播種を行いましたか		作期毎の出荷計画が周知されており、それに対応できるよう苗床を整え、適期播種に努めている	農協などで作成した栽培暦 栽培日誌		
	03	育苗ポットなどの出荷台帳を整備し、保管していますか	○	育苗ポット・セルトレーなどの出荷記録が整備されており、所定の期間保管されている	出荷台帳		

平成30年度版十勝型GAP 農協施設用チェックリスト解説書
集荷・乾燥施設用チェックリスト（様式821）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.共通事項	01	作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか	○	作業機械および生産施設は、適時点検整備を行い、使用時の誤作動、異物・異品種の混入などが生じないようにしている	機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	
	02	作業機械・施設の整理・整頓・清掃を適時実施していますか	○	施設・機械は適時清掃され清潔な状態に保たれており、病害虫の発生や、異物・異品種の混入が生じないようにしている		
	03	異品種の混入を防止するため、作業開始時や品種の入れ換えに際して、施設の清掃を行いましたか	○	複数の品種を取り扱う施設の場合は、異品種混入の危険を回避するため、品種入れ替えの際は清掃を徹底している 1品種しか取り扱わない施設でも、ロットの異なる生産物の混入を避けるため、作業開始前に清掃を行うようにしている	作業日誌	
	04	作業の安全確保・事故防止を図るため、作業機械・施設の使用方法を守り、作業に当たる人の健康状態を都度確認していますか	○	作業機械や施設の説明書が所定の場所に保管されており、使用方法が使用者に周知されている 作業従事者の健康状態を都度確認し、無理な作業は行わせないなど、事故防止に努めている 修理工場・病院・作業員の自宅など、緊急連絡先が関係者にわかるようになっている	作業マニュアル 機械・施設の仕様書	
	05	施設毎に安全管理に係るマニュアルがあり、その内容が作業者に徹底されていますか	○	危険個所には注意を喚起する表示がなされている 施設の操作、作業手順が定められており、作業者に周知されている 作業中の異物混入・機械の巻きこまれ事故を防止するため、不要なものは身に付けていない	作業マニュアル 施設マニュアル	
	06	搬送用資材、作業道具や機器類は衛生的に管理されており、製品への異物混入、病原性微生物による汚染を未然に防ぐ対策を実施していますか	○	作業道具、出荷物保管容器等の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 生産物保管容器等は、農薬・肥料などとは別の場所で保管している 生産物を運ぶ台車類は、土・農薬・肥料などが付着していない		
	07	施設内に小動物や昆虫が、侵入・発生しないよう対策をとっていますか	○	施設内に小動物・昆虫が侵入しない対策が取られている 侵入した場合は、速やかに駆除し、蔓延させないように努めている 原則として毒餌は使用していない（やむを得ず使用する場合は、周辺に散らばらないようにしている）		
	08	施設が小麦とそば共有の場合、入れ替えの際に清掃を行いましたか	○	生産物の入出庫台帳が整備されており、所定の期間保管されている 施設の整備記録が取られており、所定の期間保管されている	入出庫台帳 機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	複数作物で共有していない 場合
	09	作業機械・施設等の使用及び導入に当たっては、省エネルギーに努めていますか	○	燃料の節約・節電など、無駄なエネルギーの使用を控え、施設・機械の効率的な運用に努めている		
	10	施設の責任者が定められており、作業に従事する人の役割が明確であり文書化され、出荷物に苦情や事故が発生した場合速やかに対応できますか	○	施設の責任者と作業工程ごとの指揮系統・責任の所在が明確になっている 業務体制が周知されており、万が一の場合に迅速に対応できる	組織図・作業分担表 緊急時連絡網	
11	臭気・有害な煙・埃等は適切に排気していますか	○	作業場は必要に応じて換気されており、フォークリフトの排気臭や土埃りが作業員の健康を害しないよう対策をしている			
2.集荷・原料貯留	01	施設の能力に応じた搬入計画を立て利用者に周知し、それに基づいた受入を行いましたか	○	施設の能力に応じた搬入計画を事前に立て、利用者に周知できている	搬入計画書 作業日誌	
	02	受入時に品種の確認を行い受け入れましたか	○	受入時に品種の取り違えを生じないよう確認を行っている	受入の記録	
	03	倒伏や赤かび病による被害圃場の麦は仕分けして受け入れを行いましたか	○	被害発生状況が事前に掌握できている 受入の際、被害麦が混入していないか確認している	作業日誌	小麦を受け入れない施設の 場合

平成30年度版十勝型GAP 農協施設用チェックリスト解説書
集荷・乾燥施設用チェックリスト（様式821）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
2.集荷・原料貯留	04	小麦は貯蔵・貯留中の穀温の記録・監視を行うとともに、定期的にローテーションを行いましたか	○	穀温の上昇などにより、品位の低下が生じないよう、貯留中の温度を監視している 貯留びんのローテーション管理を適切に行っている	作業マニュアル 施設マニュアル 作業日誌	小麦を受け入れない施設の場合
	05	容器に貯留内容を明示し、品種・仕分け区分の取り違え防止策を講じましたか	○	貯留容器には誰でもわかるように、目立つところに品種名や区分が明示されている	品種名・仕分け区分表示	
3.乾燥・調整	01	受け入れ後は、速やかに規定水分まで乾燥させましたか	○	品位の低下を招かないよう、速やかに規定水分まで落としている	作業日誌 水分検査記録	
	02	倒伏や赤かび病による被害圃場の麦は分けて乾燥調整を行いましたか	○	被害麦の貯留ビンが明確に区別されていて、乾燥の際、混入しないようにしている 被害麦を乾燥した後は、ラインの清掃を徹底するよう努めている	作業日誌	小麦を受け入れない施設の場合
	03	乾燥調整作業の温度管理は適切に行いましたか	○	乾燥は、品位の低下を招かないよう適切な温度で行っている	作業日誌	
	04	乾燥・調整に係る各作業日誌を作成し、保管していますか	○	作業日誌が整備されており、適時記入され、所定の期間保管している	作業日誌	
4.検査	01	出荷前の製品について生産履歴の内容を確認しましたか	○	出荷に当たって生産履歴の内容を照合している 問題のあるロットは出荷せず、速やかに対処できる態勢が整えられている	出荷台帳 事故対応マニュアル	
	02	出荷前の製品について残留農薬検査を行いましたか	○	残留農薬検査を適時実施している 問題のあるロットは出荷せず、速やかに対処できる態勢が整えられている	出荷台帳 残留農薬検査結果 事故対応マニュアル	残留農薬検査が必要とされない場合
	03	出荷前の製品についてDON検査を行いましたか	○	DON検査を適時実施している 問題のあるロットは出荷せず、速やかに対処できる態勢が整えられている	出荷台帳 DON検査結果 事故対応マニュアル	小麦以外の場合
	04	出荷前の製品について農産物検査を行いましたか	○	必要に応じて農産物検査を行っている 品位が低いロットは、再調整するなど、必要な対処ができています	農産物検査台帳	農産物検査が必要とされない場合
	05	各種検査の検査台帳を作成し、保管していますか	○	原料の検収記録、乾燥調製工程中の検査結果、出荷前検査など各種検査の記録を台帳として整理し、所定の期間保管している	各種検査台帳	各種検査を行う必要のない場合
5.出荷	01	出荷時に現物の確認を行いましたか	○	現物の取り違えが生じないよう、指図と照合した上で出荷している 包装状態、表示の確認を行っている	出荷台帳	
	02	出荷後の追跡調査ができるよう、表示等を適切に行い、記録を整備していますか	○	出荷ロットごとに来歴が追跡可能な仕組みを備えている 事故が起こった際に、迅速に対応できる仕組みがある	トレーサビリティマニュアル	

平成30年度版十勝型GAP 農協施設用チェックリスト解説書
 選別(選果)施設用チェックリスト用 (様式831対応)

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.共通事項	01	作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか	○	作業機械および生産施設は、適時点検整備を行い、使用時の誤作動、異物・異品種の混入などが生じないようにしている	機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	
	02	作業機械・施設の整理・整頓・清掃を適時実施していますか	○	施設・機械は適時清掃され清潔な状態に保たれており、病害虫の発生や、異物・異品種の混入が生じないようにしている		
	03	異品種の混入を防止するため、作業開始時や品種の入れ換えに際して、施設の清掃を行いましたか	○	複数の品種を取り扱う施設の場合は、異品種混入の危険を回避するため、品種入れ替えの際は清掃を徹底している 1品種しか取り扱わない施設でも、ロットの異なる生産物の混入を避けるため、作業開始前に清掃を行うようにしている	作業日誌	
	04	作業の安全確保・事故防止を図るため、作業機械・施設の使用方法を守り、作業に当たる人の健康状態を都度確認していますか	○	作業機械や施設の説明書が所定の場所に保管されており、使用方法が使用者に周知されている 作業従事者の健康状態を都度確認し、無理な作業は行わせないなど、事故防止に努めている 修理工場・病院・作業者の自宅など、緊急連絡先が関係者にわかるようになっている	作業マニュアル 機械・施設の仕様書	
	05	施設毎に安全管理に係るマニュアルがあり、その内容が作業者に徹底されていますか	○	危険個所には注意を喚起する表示がなされている 施設の操作、作業手順が定められており、作業者に周知されている	作業マニュアル 施設マニュアル	
	06	搬送用資材、作業道具や機器類は衛生的に管理されており、製品への異物混入、病原性微生物による汚染を未然に防ぐ対策を実施していますか	○	製品を運ぶ台車類は専用のもを使用し、定期的に洗浄または清掃している 作業道具・機器類の保管場所は、清潔に管理され整理整頓されている		
	07	施設内に小動物や昆虫が、侵入・発生しないよう対策をとっていますか	○	施設内に小動物・昆虫が侵入しない対策が取られている 侵入した場合は、速やかに駆除し、蔓延させないように努めている 施設内の駆除用に毒餌を使用していない		
	08	作業機械・施設等の使用及び導入に当たっては、省エネルギーに努めていますか	○	燃料の節約・節電など、無駄なエネルギーの使用を控え、施設・機械の効率的な運用に努めている		
	09	施設の責任者が定められており、作業に従事する人の役割が明確であり文書化され、出荷物に苦情や事故が発生した場合速やかに対応できますか	○	施設の責任者と作業工程ごとの指揮系統・責任の所在が明確になっており、文書化されている 業務体制が周知されており、万が一の場合に迅速に対応できる	組織図・作業分担表 緊急時連絡網	
	10	臭気・有害な煙・埃等は適切に排気していますか	○	土埃、作業機からの排気などが作業者の健康に影響を与えないような環境を確保している		
	11	作業中は、異物混入の原因となるものを身に付けていませんか	○	作業者は、貴金属・装飾品などを身に付けて作業していない 作業場に不要な私物を持ち込んでいない 作業に必要なボールペン等は、適切に扱われている		
2.原材料受入・保管	01	原材料の検収(品温・荷姿・異物付着等)を行いましたか	○	原材料を貯蔵する時、または製造に使用する前に原材料の状態を確認し、製造に供しても良いと判断したもの以外は使用していない	原材料受入記録 検収結果記録 残留農薬検査記録	
	02	原材料で温度管理が必要なものは、適切な温度で保管していましたか(該当しない:温度管理を必要としない場合)	○	原材料を貯蔵する場合は、その原材料に適した温度管理がされている	温度記録	温度管理を必要としない場合
3.選別(選果)施設	01	施設は、衛生的で清潔な状態ですか	○	施設は適時清掃され清潔な状態に保たれており、病害虫の発生や、異物・異品種の混入が生じないようにしている		

平成30年度版十勝型GAP 農協施設用チェックリスト解説書
 選別(選果)施設用チェックリスト用 (様式831対応)

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
3.選別(選果)施設	02	作業員に対して定期的に衛生管理向上のための研修等を実施していますか	○	手洗いの励行、清潔な作業着の着用など、作業員を通じて汚染されることを防ぐ具体的な方法が示されている 作業員向けの研修等により、その対策が作業員に周知されている	作業マニュアル 各種点検記録 構内表示	
	03	施設で使用する水の水質検査を実施していますか	○	水道水以外の水を使用する場合は、年1回以上水質検査を実施し、必要に応じ消毒を行っている	施設マニュアル 水質検査記録	水を使わない施設 水道水を使用する施設の場合
	04	施設で使用した水の廃水対策を行いましたか	○	施設内の排水溝などは、適切に清掃・補修し、漏水のないようにしている 廃水処理は、自治体の定めに従って、適切に行っている	施設マニュアル 水質検査記録	水を使わない施設の場合
	05	包装資材(ダンボール・おが屑等)は、適切に衛生管理されており、異物の混入等はありませんか	○	包装資材の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 包装資材は、薬剤などは別の場所で保管している 包装資材の保管場所は、小動物・昆虫が侵入しないようになっている		
	06	施設からでた残渣物を堆肥化するなど、適切に処理していますか	○	残渣物は堆肥化するなど、適切に処理されている	作業日誌	
	4.検査	01	出荷前の製品について生産履歴の内容を確認しましたか	○	出荷に当たって生産履歴の内容を照合している 問題のあるロットは出荷しないようになっている	出荷台帳 事故対応マニュアル
02		出荷前の製品について残留農薬検査を行いましたか	○	残留農薬検査を適時実施している 問題のあるロットは出荷せず、速やかに対処できる態勢が整えられている	出荷台帳 残留農薬検査結果 事故対応マニュアル	残留農薬検査を求められない場合
03		各種検査の検査台帳を作成し、保管していますか	○	各種検査の記録を台帳として整理し、所定の期間保管している	各種検査台帳	
5.出荷	01	出荷時に現物の確認を行いましたか	○	現物の取り違えが生じないよう、指図と照合した上で出荷している 包装状態、表示の確認を行っている	出荷台帳	
	02	出荷後の追跡調査ができるよう、表示等を適切に行い、記録を整備していますか	○	出荷ロットごとに来歴が追跡可能な仕組みを備えている 事故が起こった際に、迅速に対応できる仕組みがある	トレーサビリティマニュアル	

平成30年度版十勝型GAP 農協施設用チェックリスト解説書
製品保管施設用チェックリスト用（様式841対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.共通事項	01	作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか	○	作業機械および生産施設は、適時点検整備を行い、使用時の誤作動、異物・異品種の混入などが生じないようにしている	機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	
	02	作業機械・施設の整理・整頓・清掃を適時実施していますか	○	施設・機械は適時清掃され清潔な状態に保たれており、病害虫の発生や、異物・異品種の混入が生じないようにしている		
	03	異品種の混入を防止するため、作業開始時や品種の入れ換えに際して、施設の清掃を行いましたか	○	複数の品種を取り扱う施設の場合は、異品種混入の危険を回避するため、品種入れ替えの際は清掃を徹底している 1品種しか取り扱わない施設でも、ロットの異なる生産物の混入を避けるため、作業開始前に清掃を行うようにしている	作業日誌	
	04	作業の安全確保・事故防止を図るため、作業機械・施設の使用方法を守り、作業に当たる人の健康状態を都度確認していますか	○	作業機械や施設の説明書が所定の場所に保管されており、使用方法が使用者に周知されている 作業従事者の健康状態を都度確認し、無理な作業は行わせないなど、事故防止に努めている 修理工場・病院・作業員の自宅など、緊急連絡先が関係者にわかるようになっている	作業マニュアル 機械・施設の仕様書	
	05	施設毎に安全管理に係るマニュアルがあり、その内容が作業者に徹底されていますか	○	危険個所には注意を喚起する表示がなされている 施設の操作、作業手順が定められており、作業者に周知されている 作業中の異物混入・機械の巻きこまれ事故を防止するため、不要なものは身に付けていない	作業マニュアル 施設マニュアル	
	06	搬送用資材、作業道具や機器類は衛生的に管理されており、製品への異物混入、病原性微生物による汚染を未然に防ぐ対策を実施していますか	○	製品を運ぶ台車類は専用のもを使用し、定期的に洗浄または清掃している 作業道具・機器類の保管場所は、清潔に管理され整理整頓されている	作業マニュアル 施設マニュアル	
	07	施設内に小動物や昆虫が、侵入・発生しないよう対策をとっていますか	○	施設内に小動物・昆虫が侵入しない対策が取られている 侵入した場合は、速やかに駆除し、蔓延させないように努めている 施設内の駆除用に毒餌を使用していない		
	08	作業機械・施設等の使用及び導入に当たっては、省エネルギーに努めていますか	○	燃料の節約・節電など、無駄なエネルギーの使用を控え、施設・機械の効率的な運用に努めている		
	09	施設の責任者が定められており、作業に従事する人の役割が明確であり文書化され、出荷物に苦情や事故が発生した場合速やかに対応できますか	○	施設の責任者と作業工程ごとの指揮系統・責任の所在が明確になっており、文書化されている 業務体制が周知されており、万が一の場合に迅速に対応できる	組織図・作業分担当表 緊急時連絡網	
	10	臭気・有害な煙・埃等は適切に排気していますか	○	土埃、作業機からの排気などが作業者の健康に影響を与えないような環境を確保している		
2.製品保管庫	01	事前に保管場所・容器の清掃・点検・整備を行いましたか	○	異物・異品種混入を防止するため、保管容器の清掃を徹底している		
	02	定温保管を行っている場合は、定期的に保管庫の清掃・点検・整備を行いましたか	○	施設を定期的に点検しており、不良箇所があれば速やかに修理している 異物・異品種混入を防止するため、施設の清掃を徹底している	機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	定温保管庫以外
	03	定温保管を行っている場合は、保管庫の温度を定期的に記録していますか	○	定温保管施設は定期的に点検し、不良箇所は速やかに修理している 定温保管施設の温度は適切に維持され、保管品の品質を損なわないように管理されている	各種点検記録 作業日誌など	定温保管庫以外
	04	保管庫では、製造日・選別日などが区別できるように保管されていますか	○	保管庫内での仕分けが行われ、スムーズに出庫できるようになっている		

平成30年度版十勝型GAP 農協施設用チェックリスト解説書
加工施設用チェックリスト用（様式835対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
1.共通事項	01	作業機械・施設の定期的な点検・整備を実施し、不良箇所は速やかに修理していますか	○	作業機械および生産施設は、適時点検整備を行い、使用時の誤作動、病原性微生物による汚染や異物の混入などが生じないようにしている	機械・施設の点検記録 購入部品の納品伝票類	
	02	作業機械・施設の整理・整頓・清掃を適時実施していますか	○	施設・機械は適時清掃され清潔な状態に保たれており、病原性微生物による汚染や異物の混入が生じないようにしている		
	03	原料の変更や製造品目が変わる時は、作業開始時や原料の入れ換えに際して、製造ラインの清掃を行いましたか	○	複数の品目を取り扱う施設の場合は、異種混入の危険を回避するため、原料入れ替えの際は清掃を徹底している 1品目しか取り扱わない施設でも、ロットの異なる製品の混入を避けるため、作業開始前に清掃を行うようにしている	製造日誌	
	04	作業の安全確保・事故防止を図るため、作業機械・施設の使用方法を守り、作業に当たる人の健康状態を都度確認していますか	○	作業機械や施設の説明書が所定の場所に保管されており、使用方法が使用者に周知されている 作業従事者の健康状態を都度確認し、無理な作業は行わせないなど、事故防止に努めている 修理工場・病院・作業者の自宅など、緊急連絡先が関係者にわかるようになっている		
	05	施設毎に安全管理に係るマニュアルがあり、その内容が作業者に徹底されていますか	○	危険箇所には注意を喚起する表示がなされている 施設の操作、作業手順が定められており、作業者に周知されている	作業マニュアル 施設マニュアル	
	06	搬送用資材、作業道具や機器類は衛生的に管理されており、製品への異物混入、病原性微生物による汚染を未然に防ぐ対策を実施していますか	○	製品を運ぶ台車類は専用のもを使用し、定期的に洗浄または清掃している 作業道具・機器類の保管場所は、清潔に管理され整理整頓されている	作業マニュアル 施設マニュアル	
	07	施設内に小動物や昆虫が、侵入・発生しないよう対策をとっていますか	○	施設内に小動物・昆虫が侵入しない対策が取られている 侵入した場合は、速やかに駆除し、蔓延させないように努めている 施設内の駆除用に毒餌を使用していない	駆除作業の記録	
	08	作業機械・施設等の使用及び導入に当たっては、省エネルギーに努めていますか	○	燃料の節約・節電など、無駄なエネルギーの使用を控え、施設・機械の効率的な運用に努めている		
	09	施設の責任者が定められており、作業に従事する人の役割が明確であり文書化され、出荷物に苦情や事故が発生した場合速やかに対応できますか	○	施設の責任者と作業工程ごとの指揮系統・責任の所在が明確になっており、文書化されている 業務体制が周知されており、万が一の場合に迅速に対応できる	組織図・作業分担表 緊急時連絡網 事故対応マニュアル	
	10	臭気・有害な煙・埃等は適切に排気していますか	○	土埃、作業機からの排気などが作業者の健康に影響を与えないような環境を確保している		
	11	作業中は、異物混入の原因となるものを身に付けていませんか	○	作業者は、貴金属・装飾品などを身に付けて作業していない 作業場に不要な私物を持ち込んでいない 作業に必要なボールペン等は、適切に扱われている		
	12	帽子・ヘアネット・手袋を使用する場合は、清潔で専用のものを正しく着用していますか	○	病原性微生物による汚染防止、異物混入・作業事故防止対策のため定められた服装で作業をしている	原材料受入記録 検収結果記録 残留農薬検査記録	

平成30年度版十勝型GAP 農協施設用チェックリスト解説書
加工施設用チェックリスト用（様式835対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
	13	作業には手洗いを徹底させていますか	○	手洗いが必要な場合や手洗い方法について作業者に周知されている 作業中に手が汚れた場合や、トイレに行った後は必ず手を洗っている	作業者の服装・衛生管理に係るマニュアル・規程	
	14	定期的な検便を行うなど健康チェックを実施していますか (該当しない:検便を求められていない場合)	○	全従業員を対象に、法的に定められた回数を遵守して実施している	検便の回数を定めた規程 検便結果の記録	検便を求められていない加工施設の場合
2.原材料受入・保管	01	原材料の検収(品温・荷姿・異物付着等)を行いましたか	○	原材料を貯蔵する時、または製造に使用する前に原材料の状態を確認し、製造に供しても良いと判断したもの以外は使用していない	原材料の検収・保管に係るマニュアル 検査結果の記録	
	02	原材料で温度管理が必要なものは、適切な温度で保管していましたか	○	原材料を貯蔵する場合は、その原材料に適した温度管理がされている	原材料の検収・保管に係るマニュアル 温度管理の記録	温度管理を必要としない場合
	03	製品の製造に用いる添加物や包装資材は、適切に衛生管理されており、異物の混入等はありませんか	○	添加物はその保管規則に従って保管されている 包装資材の保管場所は、清潔に管理され整理整頓に努めている 包装資材は、薬剤などとは別の場所で保管し、小動物・昆虫が侵入しないようになっている		
3.加工施設	01	施設は、衛生的で清潔な状態ですか	○	施設は適時清掃され清潔な状態に保たれており、病虫害の発生や、異物・異品種の混入が生じないようにしている		
	02	作業に対して定期的に衛生管理向上のための研修等を実施していますか	○	手洗いの励行、清潔な作業着の着用など、作業者を通じて汚染されることを防ぐ具体的な方法が示されている 作業者向けの研修等により、その対策が作業者に周知されている	作業者の服装・衛生管理に係るマニュアル・規程 研修の受講、実施記録	
	03	施設で使用する水の水質検査を実施していますか	○	水道水以外の水を使用する場合は、年1回以上水質検査を実施し、必要に応じ消毒を行っている 検査結果を1年以上保管している		水を使わない、水道水を使用する施設の場合)
	04	施設で使用した水の廃水対策を行いましたか	○	施設内の排水溝などは、適切に清掃・補修し、漏水のないようにしている 廃水処理は、自治体の定めに従って、適切に行っている		水を使わない施設の場合
	05	施設からでた残渣物を堆肥化するなど、適切に処理していますか	○	残渣物の処理は、行政の指導に従い適切に処理されている		
	06	加熱・加圧・冷却工程があるものについては、適切に温度や圧力等を管理し、記録していますか	○	製造過程で必要な記録ができていて、またその結果を保存している		加熱・加圧・冷却の行程がない場合
	07	容器・器具・洗浄・清掃及び作業者の衛生管理等について、作業区分に応じた取扱いをしていますか	○	容器・器具類は製造過程毎に使い分けられている 施設内の清浄度、作業区分に合わせて衛生管理ができています		

平成30年度版十勝型GAP 農協施設用チェックリスト解説書
加工施設用チェックリスト用（様式835対応）

生産工程	No.	内 容	ガイドライン	項目に適合する基準、確認すべき点など	整備することが必要な資料	該当しない場合の事例
3.加工施設	08	作業動線が原材料と製品を扱うラインで交差しておらず、製品が二次汚染される危険はないですか	○	作業動線、あるいは製造ラインが交差している場合は、後工程の製造物に衛生的・物理的影響を与えないように対策がされている		
	09	製品は、適切な温度で保管していますか、また定期的にチェックしその結果を記録・保存していますか	○	責任者が決まっていて、決められた温度で保管している 温度の記録を1年以上保管している	温度記録	温度管理を必要とした場合
4.検査	01	出荷前の製品について生産履歴の内容を確認しましたか	○	出荷に当たって生産履歴の内容を照合している 問題のあるロットは出荷しないようになっている	出荷台帳 事故対応マニュアル	
	02	出荷前の製品について残留農薬検査を行いましたか	○	残留農薬検査を適時実施している 問題のあるロットは出荷せず、速やかに対処できる態勢が整えられている	出荷台帳 残留農薬検査結果 事故対応マニュアル	
	03	各種検査の検査台帳を作成し、保管していますか	○	原料の検収記録、製造工程中の検査結果、出荷前検査など各種検査の記録を台帳として整理し、所定の期間保管している	各種検査記録の台帳	
5.出荷	01	出荷時に現物の確認を行いましたか	○	現物の取り違えが生じないよう、指図と照合した上で出荷している 包装状態、表示の確認を行っている	出荷台帳	
	02	出荷後の追跡調査ができるよう、表示等を適切に行い、記録を整備していますか	○	出荷ロットごとに来歴が追跡可能な仕組みを備えている 事故が起こった際に、迅速に対応できる仕組みがある	トレーサビリティマニュアル	
	03	表示の義務付けられた、消費期限・賞味期限・製造年月日等を適切に表示していますか	○	決められた表示のルールに基づき、適切に行っている	出荷台帳	消費者に向けに出荷されず、 包装容器への表示を求められていない場合

